保育内容の創生に関する試論
—話し合いを中心として—

田中　まさ子

A Study of the Content of Early Childhood Care and Education
- Focusing on Discourse -

Masako Tanaka

Summary

The content of early childhood care and education are shaped by the interaction between teachers and children without leaning to one side or the other. "Interaction" is the current view in early childhood education. This study follows the same point of view and clarifies how teachers and children have shaped their content through documented practices.

In particular, the author took notice of discourse and analyzed them through various documents.

As a result, the following items could be clarified：

1) Discourse is a very effective method as a way of shaping the content of early childhood care and education.

2) Teachers should select a theme from children's daily play to help foster discourse.

3) The school principal as a supervisor is essential in supporting the development of discourse.

Received Oct. 31, 2001

Key Words：Content of Early Childhood Care and Education；Interaction between Teachers and Children；Discourse.

1．研究の目的

保育の内容とは何か。誰がどのように決定するのか。

手近な資料として「幼稚園教育要領」(1999年刊行）を見てみよう。これによれば、「内容」とは幼稚園教育の「ねらいを達成するために指導する事項」[1]である。同時に「幼児が環境に

かかわって展開する具体的な活動を通して」[2] 成立するものとしている。しかし、この説明はいささか曖昧である。前者と後者の間には矛盾が含まれている。前者に従えば、保育者が保育のねらいを想定し、その実現に向けて内容を選択・決定することになる。後者に従えば、保育の内容とは子ども主導で展開される幅広い活動全体を示している。換言すれば、子どもが登園してから降園するまでの活動、つまり園生活の総体がそのまま保育内容として置き換えられ得る。

実は、この曖昧さは日本の保育実践や保育内容研究、保育カリキュラム研究において長らく未整理のまま存在してきた。最も検討を要するのは「活動」の意味や内容、質についてであろう。子どもの活動全体が保育内容となるのか。それとも、その中から内容が抽出されて来るのか。そうだとするならば、どのように抽出されるのか。また、保育者、子ども、子どもの活動相互の関係をどのように把握すればよいのか等々の課題が浮上してくる。

保育者・子ども・活動の相互関係という視点から保育内容を考えるなら、筆者は次のように捉えている。まず、子どもから提供された活動―子どもの日常の言動や遊び―を保育の基本的な素材として保育者が受容する。次にそれを保育教材に組み立て直し子どもの経験を生じせしめる。その向上的な循環の過程で保育の内容が生成されると考える。従って、保育内容は単なる子どもの活動の総体ではないし、保育者が提供する保育教材でもない。子どもの経験や活動の質が変化するところに保育内容が創生される。そして筆者はその生成の方途を保育実践の実例から探ってきた。

前回の研究は[3]、戦後初期の経験主義教育の隆盛を背景とした保育実践を取り上げ、そこにおいて保育者と子ども相互が「話し合い」を持つことによって子どもの経験―活動とは異なる―が生成される様子を考察した。話し合いと言っても、もちろん大人同士や年長者のような会話は望めないが、子どもなりに言葉を駆使し、それまでの経験を動員して話し合いに参加する。その結果、(1)子どもの自発的な経験を子ども自身が自覚的に確認できる(2)子どもの自生的な経験が変容し目的的な経験へ方向づけられる。(3)当初から目的性・課題性を備えた経験を生じせしめる。(4)これらは話し合いの時機によって変化する、等の点が明らかになった。資料とした保育日誌には、「考える」「いっしょに考えてみる」といった言葉が繰り返し見られ、保育者が保育を単に子どもの活動で満たすことで終わらせまいとした意図が伝わってきた。換言すれば、活動主義に陥るのを避け、デューイ経験主義の本質である省察的経験を、話し合いを通して保育に実現させようとしたと言ってよい。

しかし、前回の研究では上掲の(1)～(4)のような結論を得たものの、話し合いが子どもの経験を深化させて保育内容を生成していく具体的な過程を分析するまでには至らなかった。資料にした保育記録の記述からは汲みは取りにくかったという点もあった。

その反省をふまえ、今回も再び話し合いを基盤にした保育の実践記録を取り上げた。そして、子どもと保育者の相互作用によって保育内容が編み出されていく過程を考察した。

2．研究の方法

前述したように、本研究は保育実践記録の分析という方法を用いた。

実践記録からは保育者の子どもに対する働きかけの全体的な構造を明らかにできる。また、保育者の働きかけに対応する子どもの姿を把握することができる。さらに、スーパーバイザーとしての園長の助言を得て、保育者が自らの保育を修正する過程も明らかにできる。これらの諸側面を総合的に考察することによって、保育内容が生成される過程を探った。

今回、資料としたのは大阪市立Ｓ幼稚園（広岡キミヱ園長）年長クラスの「保育の記録」である。Ｓ幼稚園は、1957年から1970年まで在任した広岡園長の指導の下で、膨大な保育実践記録を残した。本研究では、このうちの1961年4月から翌年3月までの記録を取り上げた。

この時期において園長はじめ教員の関心は、表層的な子ども中心主義を脱却して新しい指導のあり方を探求することであったと推測できる[4]。折から刊行された「幼稚園教育要領」（1956年）は保育内容を六領域に分け各領域の「望ましい経験」を示した。また、1960年前後は幼稚園教育における保育内容構造論が隆盛し始め、保育内容の捉え直しや保育教材の開発が進んだ時期である。このような動向は本園の保育にも直接・間接に影響を与えたであろうが、何よりも、戦後の子どもの自由遊びを中心とした保育の行き詰りが、広岡ら保育実践者を保育方法の開発に向かわせたと考えられる。そこで生み出されたのが「話し合い」に基づいて保育内容を展開させる保育である。子どもと保育者の相互作用を重視した保育である。本研究で取り上げた資料は、この独創的な実践が広岡園長の指導の下で地歩を固め始めた頃のものである。

3．本園の保育と話し合いの概要

ここで、1961年度5月の記録を例示しＳ幼稚園の保育および話し合いについて素描したい。同時に広岡キミヱ園長の保育論にも触れておきたい。記録を通覧すると、本園の特色が二つほど浮び上がる。一つは単元や主題の重視である。記録によれば、保育内容が単元や主題を核として展開しているのが窺える。単元や主題の設定は当時の一般的な方法であったが、広岡保育論の基本的理念を表わすものでもあり、また今日の保育への問題提起にも繋がるので取り上げたい。二つめは表現活動の重視である。本園は特に身ぶりと言葉(話し合い)の表現に重点を置いている。これらを重視する意味は何か、また保育内容の生成とどのように連動するのか考察する。

(1) 単元・主題の重視

単元は戦後の初等教育を中心としたカリキュラム論、特にコア・カリキュラム運動の中で注目された。幼児教育においても単元は『標準カリキュラム』(全国保育連合中央カリキュラム委員会、1951）や保育雑誌に登場し「生活経験を中心にした学びの活動のまとまり」とし

て保育に導入されていった。公的には1964年の「幼稚園教育要領」に記載されたが、子どもの活動を拘束するという嫌疑で1989年の『幼稚園教育要領』から消去された。

主題は単元よりも柔軟性があり、子どもの活動の内容や方向を明確に規定することもないので、戦前から指導計画を立てる際に用いられてきた。倉橋惣三は自己の誘導保育論について「何かしら一つの主題を以て誘導してゆくところからこの名称を附した[5]」と語っているが、幼児教育において主題への関心が高まったのはこの誘導保育論に起因するだろう。彼は適切な主題が子どもの活動を生み出し保育内容を索引すると論じた。しかし、単元と同じ理由で1989年の『幼稚園教育要領』等から消えていった。

これに対して、広岡キミヱの保育は一貫して単元・主題を立ててきた。広岡が園長に就任した頃は、「自由保育なるもの」が保育現場を席巻していた。それは広岡の眼には勝手気まま放題で思いのまま走り廻り集まったり縛られるのを嫌がる子ども達とそれを忠義に受けとめる保育者達と映った[6]。そして、「自由にのびのびとした中で豊かな成長を願うのは誰しも同様だが、それを得させる術(すべ)が問題である」[7]とし、表層的な子ども中心主義保育からの脱却を模索し始める。単元や主題はその道具であった。

広岡にとって単元や主題は子どもの日常の遊びから生起するものである。断片的な遊びが継続し始めると、保育者はそれを見定めて単元を立ち上げる。単元はその中心となり、遊びに広がりや連続性、統合性をもたらす。片々としていた遊びがよりどころを得て興味や観察、発見、想像に彩られた一連の世界を織りなしていく。換言すれば、保育内容が生成されるのである。また、単元は保育者にとっても意味を持つ。単元は保育を見通しそこへ盛り込む内容を考えることができる。広岡は単元を「遊びのたね」と呼んだ[8]。保育者は子どもの興味や遊びの中からたねを把み出さねばならない。例えば、子どもが本気で何らかのものと遊び始めたのなら、保育者はそれを単元に取り上げるであろうし、遊びが行き詰ってしまったのなら、子どもも保育者も単元や主題から解放されることも肝要であろう。良い「たね」は子どもの遊びの原動力となり、日常の遊びを統合し保育者のねらいとも統合性を持つ。単元はこのような「たね」にならなければならないと広岡は考えた。

ちなみに記録によれば1961年度の単元・主題は表７のとおりである。

これらの単元がＳ幼稚園の保育において具体的にどのように保育内容の生成に関与したのか、後で論考したい。

⑵　表現活動の重視

表８のように、Ｓ幼稚園は登園後の自由遊び、歌やリズム遊び、話し合い、身体表現などの設定的で集団的な活動、昼食、外遊び、個々の自由遊び、降園を基本的な日課としている。ここで注目したいのは言葉や身ぶりによる表現活動に重きを置いている点である。表現活動重視の理由を理解するためには、広岡の保育観にまで言及せねばならないだろう。

広岡は、幼児教育は生きる基本を習得することを最も重要な課題とすべきであると述べて

いる。現在から40余年前のことである[9]。また、彼女は生きる基本を自然に即して生きることと人間社会の中に生きることの二つの側面から捉えている。換言すれば、他者と交流して自己の本流を生かし切るのを目ざすのであり、その術を学び始めるのが幼児期ということになろうか。その方途として子どもの自己表現を尊重するのであり、保育者はその機会を保障せねばならないと考える。広岡達は表現することの意味を次のように確信し実践してきた。

表現によって、子どもは自己の得た経験をより確かに修得することができる。それが次の表現への意欲にも繋がる。また、対象への関心が高まり、対象をよく捉えよく見ようとする。その循環過程が子どもの意思や責任の育ち、自己の確立の契機となる。けれども、その循環は個々の子どもの閉じた世界の中で密やかに進むのではなく、自他相互の関連の中でなされる。子ども達は互いの表現を顕示したり差違に気づいたり、他者からの意見や承認、賞讃、評価を求めたりする。さらに他者の表現を自己の内に取り込みもする。すなわち、表現活動はクラスやグループを構成する子ども達の情緒的な結びつきをに支えられて間主観的な関係を成立させるのである。

また、子どもの表現は保育者が保育内容を構想するための適切な素材となる。なぜなら、子どもの表現は対象の単なる模写や再現でなく、そこに想像と創造の世界が盛り込まれるからである。それは、現在もしくは近い将来に生じるであろうその子どもの学びの力を示唆している。例えば子どもの言語表現に多く含まれる類推や擬人化がある。あるいは、ごっこ遊びに見られる世界の意味の解釈の仕方や現実の生活では未だ発現しない生活行動の表現がそうである。保育者はそれらの表現から子どもの姿を的確に捉え、保育のねらいを立て保育内容の構成の基盤にするのである。しかし、そのためには自然発生的な表現活動に委ねるばかりではいけない。大人の指導から解放された自由な表現も大切であるが、他方、日常の保育の中で自他の表現が交差する場を設営することも保育者の役割である。それは新しい表現を生成するフィールドとなる。

さて、それでは多様な表現の形がある中で、本園はなぜ身ぶりと言葉（話し合い）の表現なのか。

広岡が身ぶりの表現に注目したきっかけは偶発的であり、戦後の物資が乏しかった頃の保育に遡る。何もない中で絵本や童話の読み聞かせを基にして劇遊びをしているうちに子ども達が身体表現をおもしろがることに気づいたところから始まる[10]。折から「リズム」（『保育要領』1948年）や「音楽リズム」（『幼稚園教育要領』1956年）の領域が新しく起って保育現場にとまどいをもたらしたが、それらへの対応を模索する中で本園独自の身体表現を開拓していった結果でもある[11]。

身ぶりは言葉や造形表現よりも以前に現われる最も素朴な表現法である。しかし、単に他をまねるばかりでなく、「見たて」や「ふり」といった精神活動を含む。見たては、具体的に目の前にある事物を通してそれに代わる他の事物表象することである。ふりは見たてを含み

つつ、現実の日常生活の文脈から脱却した行為を表現し、これを楽しむことである。見たてやふりの対象となるのは、周囲の人々や環境の中から子どもが主体的に選び取ったものである。身ぶりはこのように身体を通した自己表現と認識であり、身体性と精神性を統一させたものと見なすことができる。広岡自身も「身ぶり表現とは、身体の動きによって自己を語ることである[12)]」と述べているように、単なる外的な形や動植物のまねとは違う。広岡は「子どもの心を語らせ、内面を育てることにかけた[13)]」と述べている。

次に言葉による表現―話し合い―について述べる。身体表現と同様、広岡の保育の中核に「話し合い」がある[14)]。保育の中で話し合いと身体表現は単独で行なわれたり、交互に組み合わされたりしている。なぜ、話し合いなのか。

言うまでもなく、言葉は人間の思考、認識、表現等に密接に関与している。人は原初的な体験をする以前から言葉の網の中で生活していると言っても過言ではない。それだけに、子ども達も言葉による過剰な刺激や空疎な多弁に流されがちである。広岡は幼児なりに自分の言葉で自己を表現することを願う。その際、一人一人の自然発生的な言葉だけでなく、クラスでの「話し合い」という方法を重視する。一人の言葉は消え入りやすく、思考も経験も途絶えがちだからである。話し合いについて広岡はこう述べている。

「ここでいう『話し合い』は、討論や論難、会議ということではない。仲間の輪のなかで、かわるがわる話すことである。ひとつの話題によって、個々に自由に話すこともあれば、ひとつのことを一人では十分に述べられなくて、皆でよってたかっていうことでもある。そうして皆で言いあい、聞きあっていくうちに、相互にわかりあい、深まりあっていく。中心を保育者が支えて助けながら話し合うことである[15)]。」

決して「話し方の指導」ではない。発言を無理じいすることもない。毎日、少しずつの繰り返しの中で話したい内容と意欲が高まるのを待つのである。「温かい思いやりと共感とを以て受け入れてやると、子どもは段々豊かに語り出すであろう」と広岡は述べている[16)]。

さて、記録によれば、話し合いと身体表現は拮抗するかのように保育に登場している。ちなみに記録では４月～３月（８月は除く）の間に119回の話し合いが持たれているが、このうち約半数にあたる56回は話し合いと身体表現の組み合わせになっている。ここで身ぶりと言葉の関連を問う必要があるだろう。まず、身ぶりは言葉の不足を補う形でごく自然に生じる。言葉で語りつくせない分、両手を広げたり身体をねじったりして身ぶりで語っている。しかし、広岡はそうした自然発生的な身体表現だけでなく、意図的な身体表現をあえて加えて、言葉の世界だけに流れていくのを避けようとする。例えば、年長児ともなれば、ごっこ遊びなどにおいても身体表現の黄金時代は過ぎ、言葉による置きかえが進む。子どもはいちいち身ぶりで表現しなくても語彙数の増加や聞きかじりの言葉に支えられて言語表現で簡略化できるからである。

それを保育者の働きかけを通して子ども達が身ぶりで表現し合い、自分の考えや感情を

しっかり体得させようとするのである。風に舞い落ちる葉、急に振り出した雨、読み聞かせの本に登場する主人公の様子など、言葉では表層を滑りがちであるところを身ぶりによって体感させる。けれども言葉を軽視しているわけではない[17]。むしろていねいな話し合いの積み重ねが身体表現を引き起こしていく。このように広岡は話し合いと身ぶりの二つの表現が、拮抗し合い補足し合って子どもの思考や認識を高めていくことを願った。

4．話し合いと保育内容の生成

次に、保育者と子どもが話し合いや表現活動を繰り返しながら保育内容を生成させていく過程を考察したい。ここで取り上げるのは1961年4月最終週（第4週）か5月の最終週（第5週）までの約1ヵ月間である（表1～表6参照）。この時期を取り上げる理由は、子どもの遊びの中から主題となる活動が生起し終息していく過程や子どもの周辺にあった環境素材が話し合いを交えて教材へと質的に変化していく様子などが比較的読み取りやすいためである。もちろん、それらの過程は偶然に生じるものではなく、次の要因が作用し合った結果と考えられる。

①子どもの遊び・言動
②①に対する保育者の指導（読み取り、意志決定―継続・変更・中断など―）
③②を反映した環境の構成
④スーパーバイザー（園長）の助言

これらの事柄が、いつ、どのような条件下で生じたのかの分析を加えて、保育内容生成の過程を考察する。

まず、この時期の子どもの姿と保育者の課題意識を探ってみよう。

資料1　4月第3週の週反省から

子ども達はだいぶ、幼稚園になれて来た。やはり楽しんで登園する様だ。だいぶ自分を出して来た様に思うが、どうもちょっとしたことにわいわいさわいで困る。設定（保育）の時、隣にいる子といたずらを始め、おさまらない。あっちでもこっちでもわいわいで、てんで話など聞こうとしないことがある。あまり早くにこれをおさえたくないし、といってこんなのをほっておくことも出来ずどうすれば良いかと思う。

この記録から保育者と子どもの関心のずれ、子ども達に引きずられがちな自分にとまどう保育者の姿が読み取れる。これに対し園長はこう助言する。

資料2　広岡キミヱ園長のコメントから

子どもを有頂点にさせるような日があっても良い。子どもが明るくてとんだりはねた

りが好きなのは嬉しいことです。これが生の子どもの姿だと思います。この楽しみたい、嬉しがりたい気持ちを充分満足させてやって下さい。今に大切なものをぐんぐん入れてもらえる日が来ます。まもなく。

園長は、ともすれば子ども達を抑制しがちな担任の傾向を見抜き、まずは子ども達を楽しませるよう諭している。このような時期に、子どもの間で庭の毛虫とりが起こり保育に変化が生じる。

資料３　４月第４週の記録から

裏庭で毛虫を見つけて来たＨ夫が本気になって「毛虫いるで」と言って来た。それを聞いて他の子たちもそれっと集って行った。木の枝にも土の上にも沢山いるのでお箸を渡してやるとすごい勢いで取り始めた。女児も混って捕っているが「こわいね」と言った。　Ｉ夫、Ｈ夫、Ｆ夫も皆につられてとれるようになっていった。

保育者は、子ども達が毛虫と遊ぶ様子を見て主題として採り入れることを意思決定する（表１参照）。毛虫の主題は子どもの関心を掴み、結局この後３週間余り継続された。一方、毛虫をめぐる話し合いが始まる。

資料４　４月第４週の話し合いから

保育者　毛虫たくさんいたね。
子ども　向うの木のとこにたんといてたわ。
保育者　そう、どんなにしてたの？
子ども　木にぶらさがっていた。
保育者　どんなにしてぶらさがってたの。
子ども　足たんといっぱい出して（身ぶりも入れて）まっすぐにしてたわ。
保育者　じゃあ、その毛虫になってごらん。
子ども　（自分の足や手をじっと見ていて足を出したりしたがどうしても表現できない）
保育者　もっとどんなにしてたかしら。
子ども　くもの巣あるやろ。あんなとここうなって（手を左右に動かして）そこいっぱい毛虫いてたわ。
子ども　（頭をあげ、手を後に組んで）こんなんしてぶらさがってた。
子ども　土のとこかてたんといてたわ。そんで取った。
保育者　そうね、下にもいたね。小さいのやったね。
子ども　これ位、大きいのもあったで。お母ちゃんもお父ちゃんもあったで。

子ども　子どものかて、たんとあったで。
保育者　そしたら皆毛虫になってごらん。
　　（表現してみると皆同じように這うばかりだった）

毛虫と遊び始めたばかりの子どもに対し、保育者はその気持ちに共感するよりも、詳しく観察することとそれを表現することを急いでいるようだ。話し合いも「どんなにしてたの」「もっとどうしてたの」と口調は柔らかでも詰問調である。これに対し、園長は次のように助言する。

資料５　広岡キミヱ園長のコメントから

毛虫の事は口では相当言えるが、身体では言えないとはどういう事でしょうか。ぐんと心にこたえるような感動は子どもの語句では足りなくて身体に出る。しかし心にぐんと素直にこたえる事なく表面で受けてしまう子どもではないかしら？とにかく固い子どもたちをきゃっきゃっとほぐすのが最も今は必要なのでしょう。

この時点で、園長はやがて深い感動を得た子どもが鋭い観察をし始め、それが表現意欲に繋がるという循環を暗示している。今はその土壌を耕す時期であると述べている。

資料６　５月第１週の話し合いから

保育者　毛虫、たくさんとってきてくれたね。どこにいたの？
子ども　電車あるやろ。ガードのとこずーっと行ってまがったらいばらあるねん。そこにいるねん。
保育者　そう。どうして毛虫とったの？
子ども　棒でたたくねん。ほんだら落ちて来るねん。それ紙に入れるねん。
保育者　Ｙ君やＦ君どこでとったの？
子ども　ぼくもいばらのとこやねん。
子ども　同じとこ。
保育者　たくさんとれてよかったね。皆さっき毛虫で面白く遊んでたね。毛虫、どうしてたかしら。
子ども　手で紐もって足を下へやってぶらぶらしてた。
子ども　（両手で交互に紐を持つ格好して前進する）
保育者　紐の上、あんなにして這ってたね。もっと他にどんなにしてたかしら。
子ども　お箸のとこ歩いていって、またお箸置いたらなんぼでも這うて来た。
子ども　お箸ではさんだら、体操みたいにぐるぐる回ったわ。

保育者　そうね。面白かったね。紐の両方から毛虫来たらどうしたかしら。
子ども　ぢーっとしてて上へ登って行った。

資料７　５月第１週の週反省から

毛虫の遊びが始まって子どもの生活が少し軌道に乗って来た。とはいうもののほんの序の口でまた乗り切れない子どももいるし、僅かにひっかかっている子も多い。毎日少しずつ発展してきているようだ。(中略)やっとぢっと毛虫を見つめる楽しさがわかって来た。それでいて表現することが出来ない。あまりにも写実的に表現しようとするため、自分の手足でどうにもならない。

資料８　広岡キミヱ園長のコメントから

とっくの昔に解っていると思っているような幼稚な事を案外知っていないのに外形はこっちりと固まって一人前に賢こぶっている。そこで私達は上塗りばかり気にしていろい塗りたくっているという事ですね。(中略) さて、自由遊びの記録、毛虫の遊び方は良い記録です。

毛虫に対する子どもの関心が強まっていき、それが園生活全体の落ち着きへと良循環している様子が分る。(表２参照)そのためもあってか保育者はさらに毛虫をテーマとした話し合いや身体表現を取り入れるが、子どもの表現は表面的な毛虫の生態を再現するのに滞まりがちである。園長は子どもが保育者の前でまだ生成りの姿を出していないことを見抜く。実際、５月４日の記録によれば、保育者は子ども達が毛虫の食物が木の葉であるのを知らなかったことに初めて気づいた。毛虫に対する子どもの認識をようやく捉え始めたのだ。それよりも園長は自由遊びの展開に注目している。毛虫が子ども達の中に定着し子どもが主体的にかかわり始めたのだ。園長は遊びの充実を予測しているようだ。

５月の２週間目に入って、子どもの毛虫を見る眼はより確かになり、「ぶらんこ」など多様な動きや胴体の色の変化に気づく。それが遊びにも反映し「毛虫のお家、アパート」など、より親近感を持ったかかわりへと発展していく。その充実ぶりに対して保育者はさらに「お話」という想像的な体験を加え、子ども達の経験をより豊かに広げようとした（表３参照)。しかし、自由遊びの充実に比べて保育者が誘い出そうとした身体表現はあまり展開しないらしい。

資料９　５月第２週の週反省から

藤棚には毛虫がだいぶ大きくなって出てきているので捕まるのも面白くなって来た様だ。だいぶ充実して来た様に思えたので「ぶらんこ毛虫のぼうけん」のお話をしてみた。

やっぱり殿様毛虫との入れ違いの所が一番面白いようだが、さて（身体）表現してみるとあまり面白くない。ごっこ遊びで机や平均台を這い回っている時は面白く表現されているのだが。

この保育者の記録には常に満足と不満足が同居している。園長はそれを受けて、その不満足な原因を幾つか投げかけている。

資料10　広岡キミヱ園長のコメントから

こんなに充実して遊べてよかった。ただし、表現がおもしろくないということはどういう事でしょう。余り考えすぎるのか？現実の遊びがおもしろくてとても表現が及ばないのか？必要がないのか。

しかし、自由遊びの充実は話し合いや身体表現の充実へとゆっくり循環してくる。

5月第3週になると、子ども達の関心は毛虫の他、園外保育で見た亀、まる虫（ダンゴムシ）、蜂へと広がっていった（表4参照）。また、対象に対する内面的・心理的洞察（資料11下線a）、子ども同士の共感（同、下線b）、創造的な表現（同、下線c）が見られるようになる。毛虫との充分なつき合いが子ども達の小動物へのまなざしや表現活動を育てたと言える。そのような子ども達に対し、園長は「子ども自ら遊びにもちこむ力」と称している。（資料13）

資料11　5月第3週の話し合いと表現から（住吉神社への園外保育）

保育者　住吉神社でいろんなもの見て来たね。
子ども達　うん、亀いてた。たんといてたで。
毛虫かていたわ。
蛙おった。つかまえたけど逃したった。
バッタかていてた。
ヤンマ取ろ思たけど逃げた。
でんでん虫、はっぱについてたわ。
亀、浮かんだり沈んだりしてた。
（口々にあれこれとやかましく言いたてた）
保育者　亀たくさんいたね。どんなにしてたの。
子ども　大きいの泳いでてその後から小さいの子どもみたいなのついて行くねん。
保育者　どんなにして泳いでいたの
子ども　（言葉で言わないですぐ泳ぐ表現をする。床に這って手を胸の下から左に

ぱっと広げて水をかく表現をする。）
保育者　ほんとの亀みたいに上手に泳ぐね、F君のは。
F夫　（手はM君のと同じで足を時々ぱっぱと横に開く。5、6回泳ぐとぢっと止るので頭をぽんとたたいてやると首も手、足も小さくすくめてうずくまる。見ている子達、面白いと笑う。いつまでもじっとしているので。）
保育者　ぢっとしてしまったね。どうしたのかしら。
子ども　a こわがってるねん。
保育者　そう、皆静かにしといたげよ。
子ども　（ぼつぼつ首を出し、手足を出して泳ぎ始めた。b 皆ほっとしたようだった。）
保育者　ぢゃ、向うの人たちは亀よ。お散歩に出かけました。
子ども達　（皆がさがさ泳ぐ表現。c いろいろのが出て来る。）

資料12　5月第3週の週反省から

まだ一つのものだけで押し通して行くだけの力を持たない子ども達ではあるし、今の自然が多彩であるので登場する小虫はどれにも興味を持ち蜂の巣を見たりまる虫を取ったりして子ども達の遊びが広げられていく。最初の毛虫を取り始めた頃に比べると非常に積極的になり生活が随分広がって来た様に思う。そして落ちついてぢっくり物を見るようになって来た。

資料13　広岡キミヱ園長のコメントから

亀のようなものは私たちが机上で考えたのではどうしても子どもとは結びつきませんね。でも実際はかくも面白い。否、面白く観る、感じられる。遊びの中に持ち込める態勢が子どもの中に出来ているということでしょう。

（下線：引用者）

5月第4週では、蜂、蝶、毛虫、まる虫、蛙などを素材としたごっこ遊びがさらに活発になっていく（表5参照）。子ども達の遊びでは、蜂や蛙が混在しているが、保育者は話し合いや身体表現において蛙や蝶を個別に取り上げている。子ども達がそれぞれの対象を掘り下げて捉えられるようにという意図だろうか。けれども、それによって逆に保育者自身が子どもの虫に関する表現の深まりや意識について、改めて理解する結果となっている。そして、週の反省では、子どもの表現の楽しさが増すのと共にクラスの繋がりが出てきたと述べている。園長もその点を評価しつつ、活動が充実している時こそ保育者の指導・援助の具体的な記録を残すよう指示している。

資料14　5月第4週の週反省から

全員がどこかのグループに加わって遊べると云うことがやっとできるようになった。そして自分達で何かと遊ぼうとしている様だ。(中略)少しずつではあるが表現の楽しさが分って来たように思う。

資料15　広岡キミヱ園長のコメントから

どの遊びも、大分、遊び続けられるようになって来てますね。先生があるところは強力に押しているのか、そしてそのことはどんな結果になっているのか、もう一寸具体的に書いて記録に残して下さい。虫というもので遊べたことは良いことでした。これで子どもはぐいぐい自発的に遊びことを覚えていくでしょう。

5月第5週では、遊びの素材としてててんとう虫や園外保育で捕まえたえびかにが加わる(表6参照)。それらに関する話し合いを見ると、保育者に問われた範囲で答えていた頃とは違い、子どもの発言が活発になっている。話し合いは、子どもの対象に関する認識やそれを説明するための表現の工夫、さらに、子どもが対象とどのようにかかわっているのかなどについて把握できる内容となっている。また、子ども同士は会話によって相互に知識を分ち合っている。

資料16　5月第5週の話し合いから　―てんとう虫―

保育者　てんとう虫見たことあるの。
子ども　赤いとこにてんてんついてんね。
子ども　赤いとこに黒いてんてんついてる。
子ども　黒いところに赤いてんてんついているのもあるね。
子ども　七星てんとう虫やったら赤いところに黒いの七つついてんねんで。
子ども　赤いところに黒いのついてんね。同じ大きさのが背中についている。
子ども　赤いところに白いてんてんあって中に黒はいってんね。
子ども　柿色のとこに黒いてんてんついてたわ。
子ども　赤いところに黄色と緑をまぜてんね。
(中略)
保育者　そう、どうやって歩くの。
子ども　足出してちょっちょっと歩くね。
子ども　お茶碗みたいな中に足あるね。
子ども　てんとう虫のまるい所はぐると中に羽ついてんね。

子ども　まるい羽で羽の中にもう一枚うすい羽入ってんね。うすいのと丈夫のと一緒に広げて飛ぶね。

子ども　うすい蝉の羽みたいなんあって取ろおもたら飛ぶね。それで又、ふたするねん。

―― **えびかに** ――

保育者　○君、えびかにの穴を見つけたのね

子ども　土の下にまるこいのあっていっぺんにえびかにとれるわ。まるうて長い穴なってんね。

子ども　川の土のよこ穴あって草生えてた。えびかに出て来て又入った。

子ども　川の下に穴あってえびかにぢーっとしてたから死んでる思うてあっちへ行ってしもて今度行ったら逃げた。だまされてしもた。

（中略）

子ども　ぼく、前にたんぼの雨ふった時、穴のとこからえびかに出て来てん。雨やんだら入っていく。

資料17　５月第５週の週反省から

月曜日の遠足が行けなくなって、前半は遊ぶが新鮮な材料がなく、どうなることかと心配したが今までの小虫の遊びも大分つづいているのでとうていだめだと思っていたが子ども達の意欲に感心した。

保育者は、この後一週間の間に子どもの興味や関心を見きわめた上、新しい主題への移行を決定している。これまでの一連の虫達の主題は折りを見て再度取り組みたいと述べている。

5．考察

以上、Ｓ幼稚園の保育実践記録を資料として保育内容が保育者と子どもとのやりとりを軸に生成される過程を見てきた。この資料は1960年代のものであり、とかくこの年代は、幼稚園が小学校教育の後追いをする傾向があったとされる。６領域に区分された様式や単元・主題の設定などを見ると、確かに一面では時代の制約を感じさせる。また、主題が自然の事物に偏りがちであるし、他方、自由遊びを限定的に捉えているようだ。しかし、今日、保育・教育内容あるいはカリキュラムを領域概念ではなく関係概念として捉え直そうとする動きがあり、子どもの関心や活動に即して保育内容を構成するプロセス・オリエンティドな方向へ進んでいることを踏まえると、このような話し合いを柱にした資料は、今後、保育におけるテーマのあり方、保育内容構成における子どもの参加のあり方、保育教材の研究・改善など

を検討する上で、逆に再考に値するものになりはしないか。私達は、単純に「子ども中心主義者」になりすましてこの時代の保育実践を眺めるのではなく、かえって保育者の要求と子どもの要求がせめぎ合っている、こうした記録から多くを学び取りたいと考える。

以下、これまでの論述を踏まえて次の三つの点を考察する。

(1) 保育内容の生成において主題や単元あるいはテーマ的な活動は必要か

(2) 保育内容の生成における子どものかかわりをどのように考えるのか

(3) 保育内容の生成において第三者（本研究では園長）の役割をどのように考えるのか

(1) 保育内容の生成において主題や単元あるいはテーマ的な活動は必要か

保育内容の子どもと保育者あるいは子どもと環境との相互関係の中で生成されるものと考えるのならば、本事例のように保育者が特定の主題（テーマ）を構想することとは相容れないのではないかという疑念が生じる。

かって1930年代から60年代頃まで主題や単元は保育内容や保育カリキュラムを構想するための手がかりとして盛んに用いられた。前半は倉橋惣三の誘導保育論を契機にして主題が、後半は小学校のコア・カリキュラム運動における単元学習が、それぞれ幼児教育に波及するかたちとなった。この間の連絡を次の言葉がよく表している。

「従来の主題という言葉が一番分かり易いのでありますが、すべて小学校に準じて考えることになり、『単元』という言葉を用いることにしました。（松石治子『幼児の教育』より下線：引用者[18]）

しかし、本稿の冒頭で述べたように、主題や単元の設定が子どもの行動を拘束しがちであるという理由で前面に出ることが少なくなった。とりわけ平成元年の「幼稚園教育要領」告示以来、一人一人の子どもに応じた指導や経験が重視されるようになり、これに対して、主題やテーマ的活動はクラス全体で取り組むのを前提としたプロジェクトになりがちなので敬遠されるようになった。

確かに、すべての子どもにとって意味ある主題やテーマ的活動を設定するのは困難であろう。特定のテーマをクラス全体で活動を行うのは、それを必要に思わない子どもにとっては苦痛かもしれない。しかし、資料３が示すように、本事例の主題は子どもが興味あるものから導入されている。保育者は子どもの身辺に散在していた環境素材が子どもの学びのための教材―すなわち保育内容へと変化し得るタイミングを掴えたのである。ここに保育者としての洞察力が求められる。また、主題の設定が保育者であったとしても、これとどのように関わりを持ちどのような活動を生み出すかは子ども達に委ねられる。子どもは自分のやり方で主題にアプローチするのを保証される。また、互いに自分を表現することによって他者と刺激しあい学び合っている。保育者はそのための手だてとして話し合いの機会を持つなどして子どもを支援している。換言すると、保育者は子どもに対して保育内容として経験してほし

い事柄を言葉でなく主題やテーマ活動を通してはたらきかけているのである。そして、子どもがいろいろな視点から関与できるように援助を行う。主題やテーマ活動は、子どもにとっていわば事柄的な環境であり保育者が行う環境構成だと見なすことができる。

過去の主題や単元の設定が子どもの活動を拘束していたとするなら、それは保育者がそれらを保育内容そのものと同一視することに起因したのではないだろうか。加わえて主題や単元には「梅雨」とか「運動会」など名前が付与される。名づけによって一連の活動や教材が保育者によって収集され一定の領域や範囲を明示するところとなる。しかし、主題やテーマ的活動を固定的な領域を明示したものとせず、上述のように環境と捉えるならば適切な主題やテーマ的活動は保育者と子どもとの関わりによって子どもの育ちに資する経験すなわち保育内容を生み出す契機となるだろう。

⑵　保育内容の生成における子どものかかわりをどのように考えるか

保育内容の構成やカリキュラムの開発において一方の当事者である子どもの参加を尊重しようという考え方が研究者や実践者の間で広まってきている。しかし、そのためには、保育者・教育者はいっそう高度な子ども理解と教育技能が必要となる。子どもの心身を養護することと彼らの主体性を尊重することとのバランスを取るのは容易ではない。特に乳幼児期の特性を考えると、子どもの参画や意思決定をどのような意味で捉え、どのような方法で実践していくのか慎重に検討せねばならない。そうでなければ形ばかりの参画に終わってしまう。

前回と今回の研究では、話し合いを子どもの参画の一つのあり方として取り上げた。話し合いといっても、広岡キミヱが前述しているように大人が行うような議論ではない。また、この資料を記録した保育者も子どもの参画をおそらくさほど明確に意識していたわけではないだろう。けれども、子ども達に対して保育者が意見を求めている点や子ども達が自由に発言できるという点では参画の一つの段階には違いない。

資料４、６、11、16などから、話し合いが自由遊びの充実と関連していること、対象への理解の深まりや広がりへ発展させたことはすでに述べた。話し合いを通して、子どもは対象に対する外見的な理解から心情的繋がりと想像的理解へ、さらに創造的表現へと進んだ。また、子ども同士の情緒的な繋がりを深めていった。このような話し合いの質的変化の過程で、対象に対する理解は保育者から伝えられるのではなく、子どもと保育者で創造され分かち合うことになる。これを保育内容の生成と見てよいのではないだろうか。

話し合いのような活動は、ピア・グループによるグループ・ワークもである。Ｉ.プラムリンとＥ.ドヴェルボリによれば、ピア・グループワークの効用として①学びの動機づけ、②社会的技能の発達、③自分自身の概念の再評価の機会を得るという点を挙げている。本研究の話し合いの事例を見ると、少なくとも③については、例えば資料11の下線部分のように子ども同士が響応しあう発言が随所に見られる。

しかし、話し合いといっても発言する子どももいれば発言しない子どももいる。このような状況に関して子どもの参画に詳しいR.ハートは「子どもたちはどんなプロジェクトにも自分の能力を全開にした状態で参画したいとは思わないかもしれない。リーダーシップをとる能力がある子どもでも、その子ほどリーダーとなる能力はない子どもたちが計画し、率先して活動しているプロジェクトに対して、喜んでそれを支える『壁』になることがあるかもしれない[19]」と述べている。どの子どもも緊張度を画一にして臨む必要はないのである。ただ、自由な意思表現の場が設けられているという認識とその場に参加していること自体が重要なのだろう。

さて、本研究は年長クラスにおける「話し合い」を取り上げたのであったが、より年少の子どもが保育者と相互関係を保ちながら保育内容を生成する場合、どのような方途があるのだろうか。今後検討してみたい。

⑶　保育内容の生成において第三者（本研究では園長）の役割をどのように考えるのか

保育内容が保育者と子どもとのかかわりを中心に成り立つとしても、それだけではなく、園の理念や地域の実情、保護者の要望など多様な第三者の関与が現実にある。その中で、保育を知悉している上、保育実践を客観的に評価できる園長のような人物の存在は大きい。園長はちょうど保育の「当事者」と「よそ者」との中間にあって保育実践者を支援できる立場にある。

本稿で紹介した園長のコメントを通覧すると、「楽しみたい、うれしがりたい気持ちを充分満足させてやって下さい」（資料２）、「固い子どもたちをほぐすのが最も今は必要なのでしょう」（資料５）「充分遊べてよかった」（資料10）など、保育者に対して特定の活動を指示するのでなく、それぞれの時点で必要と思われる本質的な観点を提言している。具体的な行動は保育者の主体性に委ねている。また「これで子どもはぐいぐいと自発的に遊ぶことを覚えていくでしょう」など、保育者が未だ気づいていない一歩先を読み取って文字どおりスーパーバイズしている。最も重要なのは「（身近なものを）遊びの中に持ち込める態勢が子どもの中に出来ている」（資料13）と述べている点であり、それまでの経験によって子どもに何が育ったのか見ぬいている点である。すなわち「何をしたか」でなく「どんな意味があったのか」という視点から保育内容を評価しているのである。このような助言が保育者を支え、その意思決定に影響を与えることになる。

６．結論と課題

本研究は、保育者と子どもの相互関係から保育内容が生成されるという視点に立ち、保育実践記録を通してその生成の過程を探った。また、相互関係の軸として「話し合い」を中心とする表現活動を取り上げた。「話し合い」を通して保育者が投げかけた主題あるいはテーマ性ある活動を子どもがいかに受容し自らの関心事としていくのか、あるいはいかないのか理

解できる。換言すれば、保育内容創成の過程を当事者達の内側から考察できる。このような立場に立って、広岡キミヱらの「保育の記録」を分析した。併せて、保育における主題（テーマ性）・単元についても次のように論考した。

(1) 主題（テーマ性ある活動）もある意味では子どもの身辺に供えられるべき環境素材である。保育者はこれを子どもとの相互作用によって有効な保育内容に変えていくことができる。

(2) そのために「話し合い」などの表現活動は重要な方法となる。

(3) 保育者が意思決定する上で、園長は適切なスーパーバイザーとして必要である。

以上の3点については今後とも考察を深めたい。

ところで、今回の研究は前回と同じくアーカイヴ・リサーチであった。保育内容を保育者・子ども・活動の関係概念と捉えて考察していくためには過去の他者の記録に頼るアーカイヴ・リサーチだけでは限界があり、マイクロ・エスノグラフィーのようなアクション・リサーチへ変更することも検討すべきであろう。そして、カリキュラム・エスノグラフィーのような方法論へ繋げていく試みも検討したいと考える。今後の課題としたい。

註

1）文部省『幼稚園教育要領』1998，p.4

2）同上

3）田中まさ子「保育における『話し合い』と保育内容―戦後初期の実践記録を中心に―」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要第32集』2000，pp.37－52

4）広岡キミヱ『幼児の内面を育てる』ひとなる書房 1987，大阪市立住吉幼稚園『保育の眼』1960（本稿はぎんのすず社の1984年復刻版を参照した）等参照

5）倉橋惣三「系統的保育案の実際」p.5

6）広岡キミヱ「出発点を省る」『大阪千代田短期大学紀要第16号』1987，p.100

7）前掲書6）p.104

8）大阪市立住吉幼稚園『保育の眼』1965，pp.11－13

9）大阪市立住吉幼稚園『保育の眼』1960，p.1

10）大阪市立常磐幼稚園「私たちの保育計画Ⅱ」1956，p.65

11）前掲書4）pp.78－79

12）前掲書4）p.77

13）前掲書4）p.88

14）前掲書4）p.100およびP.141

15）同上

16）前掲書10）p.113

17）前掲書10）p.106

18）松石治子「東京都保育連合会のカリキュラム立案に当たって」『幼児の教育』第49巻第3号1950，p.31

19）ロジャー・ハート著、ＩＲＡ日本支部訳『子どもの参画』萌文社　2000，p.42

参考文献

Ｉ．プラムリン／Ｅ.ドヴェルボリ著、泉千勢訳『テーマ活動』大空社　1998

※本研究にあたっては、広岡キミエ先生、神谷栄司先生（仏教大学教授）にご指導賜りました。厚く御礼申し上げます。
また、資料に関しては大阪千代田短期大学図書館に大変お世話になりました。感謝申し上げます。

表　1

4月4週		週　目　標	健　　康	社　　会
単元			外遊び かけっこ、鉄棒、ジャングル、山やトンネルで遊ぶ 身体検査 歯科検査 内科検査	・自分で遊びを見つける ・お友達の遊びの中に加わって皆で楽しく遊ぶ。（仲間はずれにならない） ・皆の前で自分の意見を発表する。 ・他の子のお話しや発表をよく聞いたり見たりする。 ・廊下を走って他の列の邪魔をする様なことをしない。
主題	花と蝶、毛虫。 27日以降より毛虫。			

24日（月）	25日（火）	26日（水）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 蜂と蝶、お花ごっこ、ままごと 庭のお花を見る ふじ、ツツジ、チューリップなど 片付け 動き　スキップ、高く、低く、止る、まわって止る 歌　"幼稚園"（2）（3） 話合い 昨日の遊んだこと お話 きれいなお庭であったこと 表現 うさぎの踊り、楽隊 班別降園開始	自由遊び 蜂と蝶、豚ごっこ、ままごと 片付け 歌　朝の歌 動き　スキップ、高く、後ろへけって止る ハンドカスタ 今日から皆お友達の曲で終止をはっきりと止る、拍子打ち きれいなお庭にあったこと お話の復習 表現　豚、にわとり、犬、うさぎ　動物たち。 うさぎのおどり、楽隊を入れて 歌　チューリップ	自由遊び 蜂のお城つくり 豚、犬、うさぎのお家 ままごと 歯科検査 記念写真撮影 走る　お庭一週 歌　朝の歌 動き　後けり、後へ強くける ランニング　高くとぶ、つま先で前に後にまわる、一列に並んで 表現 お花と蝶 蝶が蜜を吸う表現
記事 自由遊び 早く来た男児が積木で蜂の家を作った。そして出たり入ったりして蜂の遊びをした。他の子にも「蝶でも花でもお家作ってごらん」と言うとかみなり蝶の家を机を並べて作った。少し間をあけて中に入れるようにしていた。女児がタンポポ、チューリップの家を作り出したし、又雷蝶の家も出来てきた。けれど各々の交渉はちっともない。各々の家で外に出て飛び回ったり帰ってきて眠ったりするだけだからちっとも面白く発展しない。そして庭に散歩に行くともう行きっぱなしになって帰らない子が出てくる。これで雨が降るよと云って集めたりお花きれいだよと云って虫かお花へ行ったりしてみたがあまり続かなかった。	自由遊び 昨日と同じように蜂や蝶の家を作り遊びだしたが仲間に入れない子が多い。特に女児に多く、遊べない子とすぐ部屋から抜け出して鉄棒に行く。呼んできても又いつの間にか抜け出す。同じことを2、3回も繰り返してやっと入れてもらった。でも女児の蝶のグループがちっとも動かない。椅子を並べて座ったり、掃木ではいたりばかりしている。仕方なく散歩に行ってごらんというとやっと動き出して庭に並んでとんでいった。硬くなった顔がやっとほころびかけてきた。でも一回まわって帰るともう動かない。この子ども達はどうすると動いてくれるのかしらと思った。雨が降ったよと言っても動かない。____になって蜂の子が攻撃してきた時少し動いて来た。設定でしているような蝶やお花や動物たち蜂などになって、たやすく遊べるのだと思うが、設定の時は設定の時きりで自由遊びにはつながらない。男児は散漫な遊びではあってもたえず動いているのでまだ良いが、動きのない子たちは一番困ると思う。	自由遊び 蜂のお城を作った。長い城壁があってその所々に出入り口がある。低い小さいその入口から出入りして喜んでいる。その後はうさぎの家と犬の家とになった。始めままごとしていたお家が豚と蝶の家になった。でも家が出来て落ち着くと、皆その中に入ってしまってあまり動かない。蜂のグループだけが外に行ったり廊下を走ったり、入口に集まったり蝶をつかみに行ったりして騒いでいた。うさぎなどはテーブルの四方に椅子を置いて座り込んでいる。豚だうさぎだ、いっているがそれらしい動きは全然ない。昨日の設定のとき各々の表現は面白くしていたが、自由遊びとはやはりぜんぜん違う。「兎になってごらん」と云って初めて少し続くと云った状態だ。でも昨日に比べるとぬけ出して外に行く子が少なくなって来たし絵本にもあまりかじりつかなくなった。

自　　然	言　　語	音楽リズム	絵画制作
・お花を見る （ふじ、チューリップ、ツツジ、パンジー） ・毛玉をとる ・蝶や蜂を見る	・話合い お花や蝶について 毛虫とりについて 毛虫について 天皇誕生日について 遊んだことについて ・お話 きれいなお庭にあったこと	・歌朝の歌、幼稚園、お友達、蝶 ・動き （スキップ、ケンケン、両足とび、止りスキップ、まわりスキップ） ・表現 きれいなお庭にあったことの表現 毛虫、花と蝶 リズムバンド、バンドカスタ、お友達の曲	・描き方 お花のいろいろ

27日（木）	28日（金）	29日（土）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
描き方 お花のいろいろ 自由遊び 追いかけごっこ、鉄棒、ジャングルなどの遊び、毛虫をとる 片付け 動き　スキップ 幼稚園の曲で、止りスキップ、スキップと他の動きの組合せ 話合い 毛虫取りについて 表現 毛虫になる	自由遊び 蜂のお家をつくる、ままごと、毛虫を這わせてあそぶ。 内科検査 自由遊び 庭に出て遊ぶ 歌　朝日がぱっと 動き　スキップ、止りスキップ 話合いと表現 毛虫、お箸をそえる 毛虫とり	天皇誕生日につき休日
描き方 黒、茶、紺の画用紙に、黒、黄、水、柿、赤、白、はだ色のポスターカラーを出してみた。描くことはとても好き。大喜びで描きだした。「きれいなお花」と言っておいた。待ってましたとばかりどんどん描いていった。場所が無い位だった。見る見るうちに描きあがりどんどん新しい紙に描いていく。あっという間に次のを描いている。２枚に制限した。出来たのを見るので手がいっぱい。描いている子どもの方はあまり見られなかった。やっぱりチューリップ、２枚目は違ったお花と言ったがそれでも相変わらずだった。木を描いたのがちょいちょいあった。この方がお花よりは型にはまらない所が良いようだ。	昨日の毛虫の大部分は逃してやったがその一部が水槽で元気に這っていたのでこれを出してやった。そして、全紙の画用紙を出しておくとか身の上を這わせ始めた。あまり少なくてだめだったので裏庭で又少しだけ大きいのを皆で捕ってきた。初め紙の上ばかりを這わせ、外に出ると中に入れていた木の葉を取ってきて、それを紙の上に撒きお箸を置いてその上を這わせることも始めたので「積木を使っても良いよ」と言ってやると少しずつ運んできてぐるりとかこったり坂道にしたり、お家を作ったりして這わせた。又水槽をふせて葉をいれその中へ毛虫を全部集めてきて外からじっと眺めている子もあった。数は少ないし毛虫は小さいが一匹一匹を大事に大事にして懸命に遊んだ。もっとたくさんあれば部屋中に広げて遊べるのにと残念に思った。	「足たんとあるわ」とか「足動かしてるわ」とか、又お箸を這っているのを見て首をうえに上げては這い又上げては這っていくのをいつまでもいつまでも縦にしたり横にしたりして見ていたので少しは話したり表現出来るだろうと思って話し掛けてみたが今日はあまり話し掛けてこないので表現させてみた。四つん這いになってひざでごそごそ這うばかり。よく遊んでいた子どもにさせてみてもやっぱり同じこと。ちっとも毛虫らしい表現は出来ないし、いちびってわいわい言い出したり足をバタバタさせたりしてちっとも気持ちが静まらない。設定の前に座らせたままで私がボールに行ってしばらく待たせたのでこんなになったのだろうか。それともまだ毛虫で遊んでないのに昨日に続いて今日も毛虫ばかりをやりすぎたのだろうかとも思う。もっとほうぼうに出すべきだったと反省した。「明日お休みね」と言うと「祭日や」と言う。「そう祭日って何」と言うと「天皇誕生日」だと言う。こんな事はとてもよく知っている。私が言うまでもない。その通りとしか言えない。

表　2

5月1週		週　目　標	健　　康	社　　会
単元		1．鯉のぼりを中心に表現活動を活発にする。 2．毛虫の遊びを発展させ小虫を相手に色々、工夫すると楽しく遊べることを体験させる。 3．休日の家庭での遊びを指導する。	外で遊ぶ おいかけっこ、雷様、ジャングル、砂遊び 身体測定	・皆の遊びにグループに加わって楽しく遊びを発展させる。 ・他の子の意見を受け入れ自分も意見を言えるようになる。 ・落着いてものを見るようにする。 ・子どもの日、憲法記念日を知る。
主題	鯉のぼり 毛虫			

1日（月）	2日（火）	3日（水）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 毛虫と遊び ままごと 蝶のお家をつくる。 歌　"朝日がぱっと" 動き　ケンケン、両足とび （高く、足を蹴って、つま先で）まわる 話合いと表現 毛虫と遊んだこと 歌　ぶらんこ毛虫	自由遊び 毛虫と遊ぶ ままごと 外遊び ジャングル、うんてい、追いかけっこ 身体測定 歌　ぶらんこ毛虫 表現　毛虫　毛虫の表現をしてみると今日、初めて床に寝て這い、お尻の方を少し上げては前進するのも出てきた。両手で細かく動かして足の表現をしたり、時々顔を上にぐっと上げては前進するのも出てきて、少し毛虫らしくなった。 鯉のぼりの歌	
記事 自由遊び 朝、いつもの様に積木を出して遊びかけていたがふと、机の上を見ると毛虫の箱が置いてある。さっそく毛虫を出した。昨日のように紙を一枚セットしておくとしばらく紙の上を這わせていた。お箸をつなぎ合わせたり、積木を斜めにして坂道にしたりしていたが、右○が「紐はずしたらええわ」と言ってきたので毛虫を出した。皆毛虫を紐のところに集めてきてあっちからもこっちからも這わせ、たちまち毛虫でうずまってしまった。紐が少し長すぎたので良くさわる。一変にざーっと落ちる。又毛虫の上に乗せる。これを何回も繰り返していた。両方から衝突して、くるりと回っていくのを本当に珍しそうに「上に乗った」「上に乗った」と言って見ていた。時々ぶらんぶらんするのもあった。でもしばらくすると飽きるのか、止めてしまう。又、違う子が来る。入れ替わりながら遊んでいた。まだ、部屋中に積木や紐を張巡らして遊ぶ程広がらない。一本の紐と一つの坂道。僅かな積木程度で個々の子どもが個々の好きな事をして遊んでいる有様だった。歌と毛虫の遊びについて話合ってみた。ほんのぽつぽつ話すだけ。そして身振りと言葉と混合している。各々の話すことがばらばらでまとめ様がない。平面的に並べたにすぎない。両方から来てくぐり抜けて行くのが少し面白く表現出来た。ほんの一部分だった。	自由遊び 福○が又毛虫を持ってきて来た。もう昨日の毛虫が弱っていた矢先だったので活々したのがとても歓迎された。相変わらずお箸を這わせるのが多い。あまり変化がないので「積木で道作ってごらん」と少し働きかけるとだんだんと拡がっていった。高いビルが出来たり道をずっと長く広げたり、そこをどんどん這っていくのが面白いのかじっと見て端になると回れ右させる。紐もビニールの太いのを出したが毛糸よりはっきりしていて面白い。まっすぐ這っているのが時々くるりと裏側へひっくり返る。わいわい騒ぎ立てて見ていた。傾斜のもしてみた。下からだんだんと上へ行くのが興味を引いた。二人で一匹ずつ自分のを決めて競争させているのもあった。途中で鯉のぼりを上げるのを見に行って途切れてしまったが、今日はその後女児が身体測定に行ったのでその間男児ばかりでゆっくり腰を据えて遊んだ。最後に水槽の中（毛虫をここで飼っている）へお箸を突き刺して行くのを思いついた。中にいる毛虫がお箸を伝って這い登ってくる。次々お箸を立ててまるで林のようになった。丁度紐が上から下がっていたのでこれをこの中に入れると紐の端からどんどん這い上がってくる。この時は歓声を上げて喜んでいた。	表現 毛虫の表現をしてみると、今日、初めて床に寝て這い、お尻の方を少し上げては前進するのも出てきた。両手で細かく動かして足の表現をしたり、時々顔を上にぐっと上げては前進するのも出てきて、少し毛虫らしくなった。

自　　然	言　　語	音楽リズム	絵画制作
毛虫を捕る。 毛虫で遊ぶ。 毛虫の動きをよく見る。 お花を見る。 　ふじ、ツツジ、バラ	話合い 　毛虫について 　鯉のぼりについて 　子どもの日、憲法記念日について 　お休みの日について	歌　ブランコ毛虫 　　鯉のぼり 動き　ブランコ、毛虫の曲で　スキップ、とぶ、ランニング、まわる 表現　毛虫の色々表現 　　鯉のぼり、風に吹かれた鯉のぼり	描き方 　鯉のぼり 製作 　鯉のぼり

4日（木）	5日（金）	6日（土）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
描き方 　“鯉のぼり”ポスターカラーで 自由遊び 　毛虫で遊ぶ 　毛虫になって遊ぶ 表現と話合い 　鯉のぼり 　吹流し 　矢車、風車 歌　鯉のぼり	子どもの日につき休園	製作 　鯉のぼり 自由遊び 　砂場、おいかけっこ、ジャングル遊び、こいのぼりを見る。 歌　鯉のぼり 　　三拍子のリズム　手を打つ、とぶ 表現 　鯉のぼり 　風で動くもの 　風で大きく膨れているもの 　群像の鯉のぼり
描き方 皆、鯉のぼりを見ているようだったので描かせてみた。二つ切りの大きい紙が使いこなせずもったいない様だ。外形だけは描くが中には何もない。見る見るうちに描けるので同じようなものを幾つも幾つも並べたてる。ただ並んでいるだけで何の感動もない。全くがっかりしてしまった。 話合いと表現 「鯉のぼりどんなの」と聞くと「お父さんお母さん赤ちゃんとあって風に吹かれてる」と言う。初めしばらくはこんな事ばかり言っていたが段段押していくと「ぶらんとして木にくっついててちょっとするとわぁーと（両手をぐるぐるまわしながら）動いてきた」とか「こっち側でばっと動いて又、向う側で動いてた」とか、しっぽの先だけ動かしてみたり、大きく膨らんだ表現をしたり少し変わったのが出てきた。どの子も活発に発言するが内容が貧弱で常識的だ。 鯉のぼりは見ていることは確かだが本当にじーっと見つめていたのではない。そばでお母さんが「ほら鯉のぼりよ、お父さんとお母さんとあるでしょ。あれは吹流しよ風に吹かれてるでしょ」と言うようなことを言われほんの一瞬ぱっと見たのではないかと思う。その後は、あっここにも鯉のぼり、あそこにも、ここにも、と云った事だけで見てきたのだろうと思う。本当に自分の眼でじっと見、素直に感じることは出来ない。すべての子と皆この調子で見たり聞いたりしているのだろうと思った。あまり話させない方が良いのかと思った。	（4日のつづき） 毛虫の遊び 描き方の終わった子から廊下で毛虫を広げた。一人ずつ持って出来るお箸が相変わらずの人気だ。お箸から自分の腕にと這わせている子もあった。石○が柱にお箸を＋こんなにつけようとしていたので少し長い棒をくくりつけた。ここを這わせるのが面白そうだった。その棒にお箸を立てて先につつじの花を傘のようにつけそこまで上らせようとやっきになっていた。又枯れ木を立てると枝にくっつけたりしていた。細いのですぐに落ちてくる。根気よく拾っていた。女児が部屋で積木を出しかけたので「毛虫通るようにしてみんなが毛虫になってごらん」と言うと、やっと積木を並べて這い出した。橋や坂道トンネルなど行きにくい所を懸命になって通った。守○、土○の2人がほんとの毛虫のように少しずつ少しずつ這い、橋の所も上手に行くのが大変面白かったが他の子はただ歩いているだけだった。 　今日初めて木の葉にくっついている毛虫を見て福○が「毛虫はっぱ食べ物かな？」と言っていた。外にいた男児も分からないので皆びっくりした顔をして見ていた。もう分かりきっていると思っていたが、しばらくして「どんどん食べてるわ」と言った。「そうねみんな食べるかもわからんね」と言っておいた。	製作 朝、鯉のぼりを部屋に持ってくると長く伸ばし、皆であちこちいらって見ていた。大きいなぁ大きいなぁ、とびっくりしていた。「皆もこんな大きいの作ってみよう」ということで全紙を出した。何かと膨らみのあるのをしようと紙を巻いたり半分に折ったりしていじっている子もあった。又、紙を持つなりハサミで真ん中からぶざぶざ切る子もいた。細長い形にしておいたから、鯉のぼりの形にしていくもの又は紙の真ん中にくるりと穴をあけたように切り抜く子もあった。まず形が出来ると目をくりぬくか他の紙で切って貼るかして目にし、出来上がりにするのが一番早い。うろこのようなものを切って貼り付けるのもあった。又、しっぽやひれを小さい紙をちょっと貼った物でしてるのもあった。うろこが、さてしようとすると中々上手く出来ない。「鯉のぼり見てきてごらん」と言うと走って出て行きすぐ帰ってきた。「丸いみたいなってる」と言って、三日月の様のものを見立てたものもあった。とにかくどれも皆、速く見る間に出来てくる。そして、すぐ又終りになる。あれあれと思って見ている間にさっさと出来上がった。もう少し何とかやりようがないかなと思うが、どうにもならない。“子どもの方”は苦労なく仕上げていく。後で話合って見たが全然解っていないようだ。でも大きい紙を持って作り上げていくことに満足したようだ。意気揚々と出来た出来たと持って来た。

表　3

5月2週		週　目　標	健　　康	社　　会
単元		・鯉のぼりの製作を完成する。 ・毛虫とりや毛虫との遊びを積極的に工夫してする。 ・毛虫のお話を中心に表現活動を活発にする。	外遊び 走りっこ ツ反注射	・毛虫の遊びを工夫する。 ・グループの遊びに加わる。 ・遊べない子どもを誘ってあげる。
主題	鯉のぼり 毛虫			

8日（月）	9日（火）	10日（水）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
製作 鯉のぼり 自由遊び 歌　鯉のぼり 話合い 今日の製作について 動き　鯉のぼりの曲で とぶ、開閉とび、休止で、止る 拍子とり	製作 鯉のぼり ツ反注射 自由遊び かけっこ（お庭をまわる） バラの花を見る 鯉のぼりを見る 歌　鯉のぼり 動き　ランニング 表現　風車、鯉のぼり	耳鼻科検診 製作 鯉のぼり 毛虫を捕る 毛虫と遊ぶ 歌　ぶらんこ毛虫 （2）（3） 動き　ぶらんこ毛虫の曲で
記事 製作 鯉のぼりの続きをした。土曜日にしたのはもう出来上がったつもりでいるのか、見向きもしないでどんどん新しい画用紙を取っていく。続きのある子はなるべく別のをさせるようにした。しばらくするともう出来上がったっと持ってくる。四角い紙をぱっぱっとばら撒いてあるくらいのが多い。もう少し考えさせようと思って注意しても反応が無い。又、2、3人のグループで1枚の紙を持って行ってもいつの間にか1人づつに分かれて、各々に1枚持って作っている。 設定のとき、作品を見させて話し合ってみた。やはり美しいものは良くわかっている様だ。大小、様々なものがある。が、1つづつじっと良く見ていた。他の子のを真似てくれては困るが良い刺激になってほしい。 鯉のぼりを皆であげた。大きいのを皆で持って意気？々と上げてきた。今までとは親しさが違う。いつまでもいつまでも眺めていた。	製作 昨日話し合ったからか、今日はみんな昨日の続きに取りかかった。何とか表現しようとしているようだが、難しいのか同じようなものが多い。又、よい事を思い付いてもそれが続かない。2つ3つ作るともう面倒になるのか、後は全然駄目になってしまった。4日続けているが、どうやら限界が来たようだ。もうこれ位で止めておいた方が良いと思う。 表現 風車の表現をしてみた。始めはぐるぐる回っているだけだった。そして手で車輪のように回していた。それで1人づつにさせてみると片手づつ前後に車を回すのや、大きく円形に走り時々止りかけては又動き、最後に頭を下げて足をそろえことりと止る。福○が「真中に丸いものあって棒あって両方に矢車ついてるで」と言い出したのでそのように真中に1人両方に2人でしてみると本物のようで一瞬皆ぱっと眼を見張っていた。「棒の上についてる」と言ったので棒を群像にして風車を付け鯉も群像にしてつけた。大勢でワイワイ騒がしく作っていた。	表現 ぶらんこ毛虫の表現をさせてみた。個々には少し面白いのがぽつぽつ出てくるが全体的にちっとも動いてこない。動きのほうに行こうかと思ったが、活発に出てこない。ただ木からぶら下がって来るくらいで止めにしておいた。あまり知らない子が案外多かった為だろうか。 毛虫 藤棚で毛虫を見つけに来たので製作の終わった子から捕りに行った。小さくうずくまっている毛虫を見つけてきては棒で落とすと糸を出してすーっと落ちてくるのが面白い。やっぱり男児は積極的にどんどん見つけていく。女児はかろうじて落ちてくるのを拾うぐらいが精一杯。それでも手では恐くてとてもいらわない。お箸でそーっといじっている。落ちてきたのが途中で止ってぶらんこしているのを見付けて大喜び。ぶらんこぶらんこと騒いでじっと見ていた。急に面白く活発になって来た様だ。

自　　然	言　　語	音楽リズム	絵画制作
バラのお花を見る 毛虫をとる 毛虫と遊ぶ	話合い 製作について “ぶらんこ毛虫の冒険”のお話を聞いて 　毛虫とりについて お話 　ぶらんこ毛虫の冒険	歌　鯉のぼり　ぶらんこ毛虫 動き　ぶらんこ毛虫の曲で 　　鯉のぼりの曲で 表現 　鯉のぼり、風車、 　風にゆれる鯉のぼり、 　ぶらんこしている毛虫、 　てんとう虫と毛虫 　バラの木と毛虫、毛虫と蝶	製作 　鯉のぼり製作

11日（木）	12日（金）	13日（土）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 　毛虫を捕る 　毛虫と遊ぶ 判定 片付け 歌　ぶらんこ毛虫 動き 　ランニング 表現 　ブランコしている毛虫 お話 　毛虫の冒険	自由遊び 　毛虫と遊ぶ 　毛虫になって遊ぶ 片付け 歌　ぶらんこ毛虫 動き　“ぶらんこ毛虫”の曲について 話合いと表現 ・“ぶらんこ毛虫の冒険”のお話について ・てんとう虫、てんとう虫と毛虫、バラの木、 　バラの木と毛虫、毛虫と蝶	自由遊び 　毛虫と遊ぶ 　毛虫になって遊ぶ 毛虫をとる 歌　ぶらんこ毛虫 話合いと表現 　毛虫取りについて
毛虫 久しぶりで毛虫を出してみた。しばらく止めていたので皆集まってきて毛虫をいじくった。積み木で道を作って這わせるのもそれをずんずん広げて行った。又、イスを積み上げて下から上へ這わせて毛虫のアパートだっと言っているのや、なわを四方にめぐらせて這わせたり、以前よりずっと積極的だ。よく工夫していた。３人、５人位でもグループになって部屋中に広げていた。一方、毛虫取りを始める子もあった。長い箸で隅のほうに固まっているのも全部見付けて落とすとさーっと糸を出してぶらんこするのがあり、そのにやんや騒いで部屋の子も呼んで来て見せ合っていた。一度登ってきて又少しずつ昇って行くのや、ぶらぶら揺れながら地面まで降りていくのや、ぐるぐる回るのなどあって面白かった。表現してみると糸の出し方、ぶら下がるなど良く見ている。しゃがみながら、渦巻きのようにぐるぐる床の上を回っていくの、下がって来てまた少しずつ昇っていくもの。見たままを面白く表現していた。しかしあくまで垂直に上り下りしようとするので表現範囲がせまく＿＿＿＿＿＿＿＿	毛虫の遊び 雨のため毛虫取りは出来ず全員で毛虫の遊びをした。お家の様に積み木で作ってその中へ全部入れ込んだり、ゆるく紐をしばり紐をぶらんこのようにして毛虫を這わせたり、又棚を家にしてそこに紐を張り四方へ這わせて外からじっと見ていたり、又昨日は違ったことを工夫してとても楽しんでいた。後半は毛虫になって遊んだ。机と大積み木を部屋中に広げて這い回る。疲れると机の下へくるりと降りていって眠る。高いところ低いところ、登ったり降りたりして動き回った。時々、下へ回って「はよ通り」と言って上を通らせてから又くるりと上へでてくるのもある。長い道を腹這いで少しずつ進むので時間がかかる。それでも懸命で汗をたらたら流して回っていた。今日は短い時間だったか男児も女児も全部集まってきて、いろいろの毛虫の様子を見たり捕ったり、話し合ったりしてしっかり子どもの心に毛虫を焼き付けたような感じがした。後で話し合ってみたが表現で毛虫を見ながら話しているときはあんなに活き活きしていたが、さて話させると活発に話はするがおざなりなものになってしまう。表現力が無いのだろうか、何かに引っかかっているのだろうか。	毛虫取り 藤棚に毛虫が沢山出ていたので皆で毛虫取りをした。高いところに居るのを棒の先で落とすと糸を引いて降りてくる。あっちでもこっちでもぶらんこぶらんことやかましく騒いで皆見ている。長いのや短いのが面白い。又するすると落ちてきて又少しずつ上に昇っていくのもある。段にのぼって木にくっついたとたんに大声を出して喜んでいた。また、木の穴ぼこに毛虫が２、３匹かたまっているのを見つけて「毛虫のお家や」と騒いでいた。いっぽんの木の幹のあちこちにこんな穴があるのを見つけアパートやと又大騒ぎしていた。藤の毛虫も大きく毛が美しくなってきているので、「黒や赤いの点があるわ」とかきれいとか口々に言っていた。又、バラの花にとまっているのも見付けて満足そうに見ていた。

表　4

5月3週		週目標	健康	社会
単元		1．毛虫を中心に表現活動を活発にし、お話の中の毛虫に発展させる。 2．住吉神社へ遠足して大きい自然に接し皆で楽しくお弁当を食べる。	・外遊び 鉄棒、ジャングル、うんてい、おいかけごっこ、転ぶ ・暑い日には衣服の調節をする。 ・お弁当の正しい習慣をつける。	・自主的に遊びに加わるか自分で遊びを工夫するかする。 ・皆と楽しく住吉神社に行く。 ・お友達とお弁当を食べる。
主題	毛虫 住吉神社			

15日（月）	16日（火）	17日（水）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 毛虫ごっこ 毛虫取り おいかけっこ 園外保育（住吉神社） 園庭で集まる。園長先生のお話を聞く。 歌　朝日がぱっと 出発　9：40 住吉神社へ着く 太鼓橋を渡る 亀を見る 大きい木と若葉を見る 毛虫、でんでん虫、バッタ、蛙などをとる。 お弁当を食べる 広場で遊ぶ 帰園　1：00 降園　1：30	自由遊び 毛虫になって遊ぶ 製作 毛虫 歌　ぶらんこ虫 動き　前けり、高くける、つま先で、まわる、ぶらんこ毛虫の曲で動く。 話合いと表現 昨日の住吉神社の園外保育について 亀、太鼓橋 昼食 自由遊び 話合い　今日の毛虫作りについて	製作 毛虫のいろいろ 毛虫のいる木、木の葉など 自由遊び ジャングル、砂遊び、毛虫取り 歌　朝日がぱっと 動き　前けり、2人で、輪になって、早く、ゆっくり、後けり、ぶらんこ毛虫 表現　毛虫　大きい毛虫、小さい毛虫 ぶらんこしている毛虫が断然多い。又、葉っぱに止っている毛虫も共に糸を引くようだ。
記事 朝からお弁当と水筒が嬉しくて遊べない。あちこちでぶらぶらしている子が多い。さて出発の用意となるとさっとして並ぶ。機敏さにびっくりしてしまった。それ程楽しみにしていた住吉神社行きだったが、子どもが期待している程に遊べるだろうかと少々心配だった。でも、着く途中美しい若葉の緑で包まれている境内、とても爽やかな感じがして気分が爽快になった。子ども達もこれに感じたのか急に活発になってきた。大きい木下に立って「たんと葉っぱあるなぁ」とつくずく眺めていた。「葉っぱの間から空見える」とか「なんも見えん葉っぱばっかり」とかやかましく言いながら騒いでいた。亀の見える端では右側に行ったり左側に行ったりしながら亀や亀やと大騒ぎ。「首だけ出してる」とかちょっとうつむくと泳いだ泳いだと大騒ぎ。こちらは落ちそうになるのをはらはらしているが子どもの方はとても平気な顔をしていつまでも離れようとしない。	話合いと表現 昨日のお話を始めると、すぐ亀のことが話題に上り、あまり話し合う間もなく亀の表現になってしまった。泳ぎが面白かったのでこれと太鼓橋とで遊んだ。今日は見てる側の子も嬉しそうに笑いながら一生懸命だった。亀などただ浮いたり顔出したりしているだけだったから、あまり面白くないと思っていたが意外だった。 弁当始め 朝からずいぶんお弁当が気になっていたがさて準備にかかるとさっと上機嫌でするので早く出来てしまい、びっくりした。大きい子だけに食べるにも全然世話がやけない。貧弱なお弁当だったが無常の喜び様だった。	製作 昨日はもう毛虫の遊びが早くから始まっていたので、製作を出してもほんの一部の子だけだったので今日は早くから出してみた。平面的なものばかりだったが毛が生えている感じや足の感じが少しずつ出てきた。鯉のぼりに比べてほんの小さい製作だが小さいだけに又細やかな所に工夫している。不細工な大きいのを作っている子もあるが小さいもので工夫するのも案外面白い。そして独りの力で出来るのが良いようだ。鯉のぼりは独りでは出来るまでには飽きて来るし共同ではどうも満足できないという点もあったが、その点毛虫には自分の力を存分に打ち込めるので良いようだった。

自　　然	言　　語	音楽リズム	絵画制作
・毛虫を捕ったり毛虫で遊んだりする。 ・まる虫、でんでん虫、蝶を取る。 ・ばらの美しいお花を見る。 ・住吉神社の大木の新移を見る。	話合い 毛虫について ばらのお花について 住吉神社遠足について 蜂の色々について 製作について 本読み　「ぶんぶん蜂がとぶ」	歌　毛虫、蜂、朝の挨拶、いちご 動き 前けり、スキップ、ランニング、とぶ、ぶらんこ毛虫の曲で色々に動く 表現 蜂のとび方いろいろ、毛虫、ばらの花、亀、太鼓橋	製作 毛虫、木の葉、ばらの花 バラの葉っぱなどを作る。

18日（木）	19日（金）	20日（土）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
製作 毛虫をつくる ばらの花を見る 花びらを拾う まる虫を取る 話合いと表現 ばらの花について 本読み “ぶんぶん蜂がとぶ” 蜂になってとぶ 歌　蜂の歌 昼食 自由遊び 蜂の巣を見る まる虫取り	製作 ばらのお花を作る 毛虫、まる虫を作る 自由遊び 毛虫ごっこ 毛虫取り 動き　前けり、ぶらんこ毛虫 話合いと表現 “ぶんぶん蜂がとぶ”のお話について 表現 蜂　自由に飛ぶ（羽の動かし方） 高いところへ飛ぶ 高くなったり、低くなったり 藤の蜜を吸う ゲーム　蜂と毛虫 昼食 自由遊び 毛虫取り、お家ごっこ 歌　朝の挨拶、蜂	製作 ばらのお花を作る 自由遊び 毛虫取り 動き　前けり リズムバンド いちご、ぶらんこ毛虫 （ハンドカスタ、タンバリン） 歌　いちご
表現 ばらの花を表現させてみた。始め手で花の形をしていたが段々と身体全体で表現するし、最後には群像になった。ばらの花を見に行った。ピンクのや黄色いの真っ赤なのが咲き乱れてほんとに美しい。「きれいやなぁ」と感心していた。お花をかいで「ええ匂いしてるわ」と１人が言うと吾も吾もとかぎに来た。ありが花びらのあちこちに付いているのを見て「みつ食べにきてんねで」と言ってじーっと見つめていた。」少し枝にさわりと花びらがさらさら落ちてくるのできれいきれいとわれ先に拾っていた。又ばらの下にまる虫を見つけた。するともうばらにはお構いなく虫取りに懸命になった。外側からばらを見るとまた美しい。折柄蜂が来てぱっとばらに止ったので皆で大騒ぎ。でもすぐにとんでいってしまってがっかりだった。	製作 ばらを作らせて見た。平面的なもので◎とした程度のものが多い。中には平面だがハサミで上手く切り込みをいれて、よくばらの感じが出ているのもあって面白い。個々に作らせると各々に工夫して面白いが、あまりにもばらばらでばらの花の美しさがないので、やはり、全体的にばらの感じの出るものをつくる事にした。立体の花はまだ考えられないようだった。 蜂の表現をしてみた。自由に飛ばせて見ると羽の動かし方が各々に違っていて面白い。細かく早く振ったり、ぴーんと張って大きく動かしたり、後ろに伸ばしたりしていた。そこから高く飛ぶのをした。飛び上がって走っていくもの、両手を高く上げるもの、更に何とか高くと工夫していたので大部分蜂の飛ぶことで終わってしまった。	製作 今日はばらの製作をお花だけにして作らせてみた。あの美しいばらのお花には感じてるらしいがさて作ってみると平面的なものばかりで立体的な美しい感じが全然でて来ない。芽を沢山はりつめたので全体のかんじが平面的なものになってしまった。子ども達は美しい美しいと感嘆していたリズムバンド毛虫とイチゴの曲でして見た。何回でも叩くことが好きでいい気になって叩くがガチャガチャしていて合わない。そのままに分奏してみたり、頭打ちにみたりしたので全然面白くない。お稽古みたいでやりきれなくなってしまった。一足とびに無理なことをしてしまって残念だった。

表　5

5月4週		週　目　標	健　　康	社　　会
単元		・ぶんぶん蜂がとぶのお話を中心として自由遊びや表現活動を活発にする。 ・庭のばらや、小虫などに興味を持ち楽しむようにする。		・自由遊びの時、グループに協力して遊びを面白くする。 ・自分の遊ぶ場を見つけようとする。 ・みんなの前で自分の意見を発表する。
主題				

22日（月）	23日（火）	24日（水）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 　蜂の毛虫、まる虫のお家ごっこ 製作 　ばらのお花を作る 動き　前けり　高く、つま先で、まわる、 歌　ぶらんこ毛虫 リズムバンド　ハンドカスタ、タンバリン、トライアングル “ぶらんこ毛虫”の曲で 　自由に打つ　始めと終わりをきっちり 　休むところをはっきりする 　指揮した部分だけ叩く 　１節づつ交互に叩く 　指揮させる 動き　1，2，3の部分［とぶ、まわる、手を叩く］ 話合いと表現 　蜂の巣を見たことについて 　蜂の巣と巣の表現 　大きい蜂、小さい蜂、巣にいる蜂 昼食 　自由遊び 歌　朝の挨拶	自由遊び 　蜂、毛虫、まる虫ごっこ 製作 　ばらのお花 動き　前けり	製作 　蜂の巣、はち、毛虫 自由遊び 　蜂ごっこ 動き 　前けり 歌 　ぶんぶん蜂
記事 自由遊び 久しぶりにごっこ遊びを始めた。中心に蜂の家が第一番に出入り口を作ったり、蜜入れを作って遊んだ。でも、家がただ外廊だけでだだっ広いものだった。一方蜂にならない子どもを「毛虫のお家つくったらどう」と誘ってみたら、机を段々広げて行った。木が伸びていくようにどんどんつなぎ、テラスまで伸びたその上を這っていく。所々椅子でつなぐので登ったり降りたりしながら進むのが面白い。疲れるとくるりと机の下に這いいって休むようにしている。窓の敷居に「ぶらんこや」といってぶらドがっているのも面白い。又一方で2、3人の子どもが小さい家を作りまる虫になった。蜂と仲良しで遊びに行ったり来たりする。	自由遊び 今日もまた蜂のお家を作り始めた。しかし昨日のとは又違う平面的に広げてその上に屋根を置き中に入れるようにしてある。外に出てお花の蜜を吸ってきておくらに備えている子どももあるし、蜂同士で捕まえごっこしているのもある。毛虫やまる虫は始めから仲良しで遊びに行ったり来たりしているのに、思えばいつの間にか捕まえごっこになってしまっている。何だかさっぱり訳がわからないが子どもの方では結構楽しんでいるのか捕まえて来て部屋に入るのが楽しみらしい。捕まえられている方もちっとも恐がっていないで喜んで言っている。 でも蜂は外へ飛び出すと行ききりになってしまって家の中がすぐ空家になってしまう　始めていた毛虫のほうが木の枝をどんどん伸ばしていった終点に机を立てて毛虫の家にし、机を方々に伸ばして這っていく。蜂の家の積み木も全部毛虫に引き入れて廊下、テラス、部屋にまたがる枝にした。終に蜂の子が全部吸収されてしまって皆で毛虫になった。這うのがとても上手く実感ができて面白い。段々低くなっているところを降りたり登ったりするのや、積み木の細かいところなども落ちないで上手に這っていく。時々裏側に回って休んだり、ぶらんこしているのもある。雨が降ってくると皆机の下に入ってただ困っている。しばらくすると又這い出してくる。坂道になってすべり落ちそうになるのを懸命に登ろうと力を入れている毛虫もあった。一方女児の一部がまる虫の家を作ったが家作りは上手だがまる虫の遊びがどうも発展しない。同じ事ばかりしている。蜂や毛虫とも交渉を持とうとしない。女児ばかりのグループはどうも発展性が無い。又製作をしていた女児も遊びに加わるとすぐにするりとぬけて鉄棒に行ってしまうので今日は_____。 表現 蜂の高く飛ぶのをもう一度させてみた。なかなか上手くいかないが時々飛び上がったり又女児では前に大きくとんだりして高い表現する子がでてきた。皆させてみたがドタバタ音ばかりで軽く飛べなかった。蜂のとび方色々させてみた。宙返りやぐるぐる回るものもあった。あちこち直線にいくもの、又とても複雑なまわり方をするのなど出てきて面白かった。上がったり降りたりしながらとぶのが一番得意だった。藤やばらのお花を出してみつを吸うのを続けてしてみた。何回繰り返しても好きらしい。ちゅっちゅっみつを本気になって吸っていた。ばらやいろいろなお花からみつをもらって遊んだ。まる虫や毛虫を出すと追いかけっこになった。	製作 昨日午後蜂の巣を作らせて見た。平面にぽつぽつ穴をあけたのばかりだった。「蜂が中に入れるようなの」と言っても中々考えられないで紙をさわっているだけ。2人くらいがやっと紙を巻いて巣にした程度だった。今日は昨日に続けてしてみたが平面のは無いが皆紙をぐるぐる巻きつける。こんなのばかりで違ったものは全然でて来ない。巻きつけたものを幾つか集めるだけで変化が無い。手○がやっと細く巻いたのを集めて作った。蜂も十形のものが多くて、眼やどうの美しい感じがちっとも出てこないのでがっかりしてしまった。沢山できてはきたがあまり面白くなかった。 お話 一週間前にはなしたままになっていたのでもう一度聞いてみたらよく覚えている子と全然忘れてしまっている子とあった。家で何回か繰り返し読んだり読んでもらったりした子と全くふれてない子とがあるようだ。それでもう一度絵本を見せて読んだ。始めてのお話のような顔して懸命に聞き入っていた。 表現 まる虫だけを取り出して少し話し合ってみると女児も相当よく知っているようだったので表現してみた。右の下、上の中、ごみ箱の下、葉の下にいるつもりでじっとまるくなっている。静かになると少し顔を上げて「大丈夫だよ」と言いながらぞろぞろ出てくる。ちょっと物音をさせるとぱーっと散って椅子の下に頭だけを入れて隠れたつもりでいる。又出て来る。何回か繰り返してするときゃあきゃあと騒ぎながら逃げ出した。蜂を出してみた。一目散に逃げ回る。転ぶのもある。手や足を中に入れてまるくなるわと言いながら転がっていくのが面白かった。

自　　然	言　　語	音楽リズム	絵画制作
毛虫取り、まる虫取り	話合い 蜂の巣について まる虫のお家について 毛虫のぶらんこについて	歌　ぶらんこ毛虫、朝の挨拶、いちご、まる虫、ぶんぶん蜂いちご 動き　前けり、ぶらんこ毛虫 表現　蜂のとび方、藤の花と蜂 ばらと蜂、毛虫、まる虫 毛虫と蜂、ぶらんこ毛虫	製作　ばらのお花、はち、 蜂の巣

25日（木）	26日（金）	27日（土）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 蜂、蝶、まる虫ごっこ、蛙、蛙 動き　高く、スキップ、皆で輪になって、後ろ向きの輪になって 歌　朝の挨拶 表現 ぶらんこ毛虫 ぶらんこしている毛虫と蜂 まる虫と蜂 ゲーム 蜂と毛虫の追いかけっこ 昼食	自由遊び 蜂、蝶ごっこ （熊蜂、大蜂、蜜蜂） 動き　前後左右に、ランニング、高く、後へ強くける、手をつないで、うず巻き 話合い 今日のごっこ遊びについて 表現 蝶のいろいろの表現 いろいろな蝶になる とび方の表現 蜜を吸う 蜂の巣の表現 １人で　群像で 蜂の巣と蜂 動き　前けり 歌　ぶんぶん蜂	自由遊び 毛虫になって遊ぶ 木に登る　木から木へ飛び移る 歌　朝のあいさつ 動き　スキップ、ランニング、朝のあいさつによる動き 表現と話合い 毛虫の生活について １つの木から次の木へ移る毛虫 木に登る毛虫 話合い 長居遠足について
自由遊び 蜂、蝶などの遊びを始めた。蜂は熊蜂と蜜蜂と２つの家があるが家を作るまでは活発だが、作ってしまうと散歩に外に出てそのまま外遊びになってしまった。何回か呼び止めてきて、又遊ぶといったことの繰り返しだった。まる虫は女児ばかりだった。今日は活発で面白い。椅子を並べて＿をかぶせて机の上に＿をかぶせ両方とも下にもぐりこめる様になっている。蜂が来ると石の下に隠れまたぽつぽつ顔を出して這い出していく部屋中はいまわって又巣に戻る。そんなことで10人くらいの女児が面白く遊んだ。蜂のほうは独り独り蛙になってぴょんぴょん跳びまわっていた。 表現 ぶらんこ毛虫の表現が面白くなってきた。口から糸を出しながらぐるぐる回って糸を段々長くしていく。又上下に振動しながらぶらんこするのや、左右にぶらんこしながら大きく円形にまわったり、又部屋の端から端まで大きくぶらんこする、又左右に揺れるのとぐるっと自転するのと交互にしたり、変わったのをいろいろ出してきた。又糸を出してするすると降りてくるところなど顔を上に向けて両手で口から糸を出す表現をし実感が良く出ていた。糸を切らないように少しずつ少しずつ注意して伸ばしていく。など、よく毛虫を見るようになったと思った。その後蜂が来て逃げる表現をしてみた。ぶらんこの糸を長くするすると一と引いて地面に落ち草の中に隠れるもの、ぱっと飛んで「木の葉に隠れた」と言って椅子に頭だけ突っ込んでいるもの、木の上の毛虫のお家に入ったといってロッカーや机の上に伏せるものなどあっちぶらんこしている糸を伝って上へ登って行き木の葉に隠れる表現をさせてみようと思ったがこれが平面では考えられなくて駄目だった。	自由遊び 今日は蜂と蝶とになってしまった。蜂は熊蜂や大蜂蜜蜂と各々に家が異なっていて捕まえごっこをしたり、蜜をもらいに言ったり散歩したりしている。蝶のほうは時々散歩に行って蜜だっと言って花びらを拾ってきたり蜂から逃げたりはしているが、みんな同じようなことをしているし動きがちっとも活発でない。ともするとじっとしてしまう。後で話し合ってみるとやっぱり蜂の方はお話は面白いが蝶はぜんぜんだめだった。いったい蝶にどれくらい関心を持っているのかと思って蝶のことを少し話し合ってから表現してみた。対照的に書くと面白い。 表現 表現してみてびっくりした。蝶のことをとてもよく知っていることだった。種類でも、もん白蝶、黄蝶、かみなり蝶、黒蝶、蛾、蝶、青すじ蝶、電気蝶など次々に出て来る。表現してみると羽の大きいか小さいか、早く動かすかゆっくりか位でそう大して変わりはない。飛び方をしてみたが色々のものをよく知っている。宙返りするのや、まっすぐ行ってくるりと方向を変えるのや右に左に飛び交うのや、上へ行ったり下ってきたりするのなど色々ある。後ろからほかの蝶に追わせ逃げていくのを表現してみたかったがこうなると直線に行ったり、上下や、左右に飛んでいくのが出て来て実感が出て面白かった。蝶については男児だけでなく女児も興味をもちとても活発に表現した。 蜂の巣を個人で群像に表現してみた。二人手をつないだ最も簡単なものからだんだん外側へくっついて行って沢山部屋のある巣が出来上がった。が、ここへ蜂を入れて飛び出すところをしようとしたがここへ蜂を入れると折角の巣が崩れてしまってだめだった。両方一緒では無理なようだ。	表現 自由遊びのとき木から木へ移るのが面白そうだったので表現してみた。又木の下から上へ上っていくのもまた降りるのなどもしてみたがどうもよく解らない子が多く雑なくするする上り下りして面白くないし木へ乗り移るのも一跨ぎで飛び越すのでちっとも面白くならなかった。糸を出していたがこの面白さは全然なく全く失敗だった。自由時間長い時間毛虫を出しておいて又表現に重ねたのがくどかったし子ども自身充分こんな見ていたなったのを取り上げたことなど原因だと思う。 自由遊び 毛虫の遊びをしてみた。蜂も出しかけていたが、今日は毛虫だけで全部これに入り保育全体に広げてしてみようと思った。木だといって机を高く積み上げその上へ登ったり降りてくるのが長い間あって、この部分が一番多く集まる。窓の細い台の上を通るようにしてみたら窓際の机の所からここへ飛び移るのが面白いようだ。うまく手を伸ばして向こうへうつったりぶらんこの様にしたり、毛虫の実感がとてもよく出ていた。細い板の積み木を机の間へ置いてぶらドがってぶらんこ毛虫だといっている子どもや柱に登って行くのもあった。「僕は殿様やで」と言って威風堂々と這っているのも面白い。向こうから来る小さい毛虫の身体の上をうまく通り抜けている。頭と頭を突き合せてじっとしてしばらくしてからおもむろに通り見付けて行くこともしていた。

表　6

5月5週		週目標	健康	社会
単元		・蜂や蝶、まる虫、てんとう虫などの昆虫に興味を持ち、これを見たり捕ったりする。 ・小虫を中心にリズム表現や言語行動を活発にする。 ・えびかに蛙とりに力一杯出す。	・長居の草原で元気に走り回る。 ・走りっこ、追いかけっこをする。	・小虫にも生命がありこれをいたわるようにする。 ・小虫を中心にしてごっこ遊びを発展させるようにする。 ・みんな誘ってごっこ遊びができるようになる。
主題	蜂と蝶 えびかにとり			

29日（月）	30日（火）	31日（水）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 蜂と蝶ごっこ 話合い 今日の遠足のこと 朝の雨について 表現 雨　風に吹かれた雨 雨風 細い雨 夕立のようなぽつぽつ雨 話合い 雨のときの小虫たち てんとう虫について 歌　てんとう虫、蜂 昼食 自由遊び 毛虫とり、てんとう虫とり、お家ごっこ 友達おいで	自由遊び 蜂とてんとう虫、毛虫ごっこ 動き　（ボールで） 前けり、後けり、ランニング（渦巻きで一列で） 歌　朝のあいさつ 朝のあいさつの曲による動き “ぶぶぶぶ　ぶんぶ　ぶんぶんぶん”のところをいうように飛ぶ 表現 てんとう虫　葉に止まったり、飛んだり、ちょこちょこ歩いたりする。 蜂、毛虫、まる虫、蝶 昼食 自由遊び まる虫、てんとう虫、蝶捕り、お家ごっこ、ハンカチ落し 歌　てんとう虫	自由遊び 蜂ごっこ（熊蜂、蜜蜂） 蜂とお花 動き 前けり、ギャロップ 歌　朝のあいさつ、まる虫 まる虫の曲に合わせて転がる お話 “仔牛のブル坊”
記事 自由遊び 朝しばらく不安定なようだったがぽつぽつ積み木を出してきた。机を立ててトンネルのようにした。蜂の家らしい。通り抜けて下にもぐれるようになっている。机の　たところへ積み木を積みその上から首を出して客だと喜んでいた。蜜蜂のお家のようだ。一方別の方へ男児で作ったのが熊蜂だ。そこも下から通り抜けて巣に這いいれるようになっている。くぐり抜けるのが面白いらしい。ここばかりで遊んでいた。「毛虫のお家無いの」と聞いてみたが今日は一向に出来てこない。そして又別に蝶のお家が出来た。外に行けないので小さい積み木や木切れを出してみたが、これは失敗だった。板を選んだり集まったりすることに気をとられてしまった。やっぱり大きい机や積木だけの方が発展性が合ってよいようだ。	自由遊び 蜂の他にてんとう虫の家が出来た。まるく小さくなってうずくまっているかと思えば、ぱっと飛び出したり少しずつ這い出したりしたいた。蜂の方は盛んに蜜を集めて来ては＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。	自由遊び 蜂ばかりで家が出来た。男児が熊蜂で飛び回って威力を振り回している。ブンブンブンと大きいうなり声、すごく恐ろしい。見張り番もいる。しかし蜜蜂を襲っているのでもなくただ威力を示しているだけのようだった。一方、蜜蜂の女児は巣を作るまでは活発だが、出来てしまうとちょんとすわって動かなくなる傾向がある。「蜜蜂のお家赤ちゃんも居るのでしょ」と言うと小さい5、6人の子が赤ちゃんになり、その他の子はお母さんお姉さんになって蜜を集め出した。一方いつも遊びに加わらない清○、池○、角○を誘ってお花にするとそこへ飛んできて蜂蜜をもらって赤ちゃんに与える。時々熊蜂が来襲すると大騒ぎになるが蜜蜂の守りが堅いので退散する。蜜を集めにいく蜂を襲ってくることもある。こんなことでやっと活発になってきて、遊びが続けられた。でも熊蜂はどうもよく喧嘩が起こってまたしても散々になりそうになるがどうにか支えてやっとやっと持ちこたえられた。 お話 仔牛のブル坊を読んだ。「もうしない」と言いながらまたすぐ忘れてしまう。ブル坊のいたずらに共鳴できるのか「よう忘れるなぁ」と言いながらとても楽しそうだった。つぶつぶはまっていく恐ろしさを本気で味わった様だ。

自　　然	言　　語	音楽リズム	絵画制作
園庭で まる虫、てんとう虫などを捕る。 蝶や蜂の飛び交うのを見る。これ等を追う。 えびかに蜂捕りの遠足をする。 蝶をとる クローバーを取る	話合い 雨の日の小虫たちについて ごっこ遊びについて 園外保育について えびかにとりについて お話 仔牛のブル坊	歌　はちの歌、朝の挨拶、まる虫、クローバー、てんとう虫、 動き　後けり、前けり、ランニング、ギャロップ、ころがる、クローバーの歌の動き 表現　雨、てんとう虫、蜂、毛虫、まる虫、蝶のいろいろの表現　えびかに	

1日（木）	2日（金）	3日（土）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 熊蜂、蜜蜂、蝶、てんとう虫、まる虫ごっこ 歌　朝日がぱっと 話合い 今日の遊びについて 蝶について 表現 原っぱに飛ぶ蝶 おいかけごっこの蝶 クローバーと蝶 歌　クローバー 昼食 自由遊び 蜂の巣を見つける てんとう虫をとる 歌　クローバー	園外保育（長居公園） 集合 幼稚園出発 バス乗車 出発　9:40 長居　着　10:00 えびかにを取る　10:30～12:00 昼食　12:00～12:30 蝶をとる　12:30～1:00 集合　1:00 バス集車　1:20 幼稚園着　1:40 降園　2:00	自由遊び えびかにと遊ぶ えびかにになって遊ぶ 片付け 動き　前けり、ギャロップ、足うちとび 歌　クローバーの歌 話合いと表現 昨日のえびかにとりについて えびかに表現 大きい赤づめ 小さいえびかに 巣の中で小さくなる 散歩に出てくる 大きい音でおどろいて逃げる 蛙 歌　蛙
表現 群がって飛ぶ草原の蝶を表現してみた。皆で飛ぶときはどうもぐるぐる回るのだけであまり変化がなかったので、2匹か3匹くらいで戯れながら草原を飛び回る表現をしてみたら飛び方がとても面白い。ジグザグに行ったり、上へ言ったり下へ行ったり、宙返りしたり、とてもよい感じが出た。 自由遊び やっぱり蜂の遊びになった。初めはあまり動かず面白くないのでやめようかと思ったが、熊蜂の巣を考えさせてみると、やっと一人ずつ這い入れるようになって、それが一つの集団になっているのを工夫し、一人ずつになって部屋に入って大満員だった。飛び出すところも作った。この坂からとてもよく動くようになり、外に出て蜜を集めて来ては巣を固めることをせっせっと始めた。女児ばかりのてんとう虫の方も集団で散歩に出かけてお花を見て帰ってきてこそこそと机の下の巣へうまく入り込む。今日は追いかけごっこでなくて各々のグループで各々に散歩したり食べ物を集めたり巣を作ったりしていた。	初めての遠足ですごく張り切っていた。テルテル坊主作っといたでと皆で言い合っている。一度お流れになっただけに余程待ち遠しかったらしい。 さて長居に着いてえびかに捕り始めた。溝でもちょいちょい捕れるがあまり一杯なので、池のほうまで遠征してみたがここが又全然だめだ。網や釣竿を振り回しているが一向に捕れないのでがっかりだった。もう一度溝に帰ってみた。やっぱりここの方が捕れる。小さいのでも網にかかると一大事と大声でわめきたてる。すくっても手で持てない子が多い。皆集まってきて持ち出してバケツに入れる。時には蛙もかかってくる。バケツからすぐ飛び出すので皆でわいわい言って捕まえるのが面白い。年少組が食事に行った時広くなって充分捕れた。小さいのしか居ないのが残念だったが、それでも大喜びしていた。捕れるようになるとお弁当とも言わないでいつまでもいつまでも探していた。午後は蝶取りに動き回っていた。一日で随分疲れた様だ。帰りはもうぐったりしていた。	自由遊び 朝来るとすぐ昨日のえびかにのところに集まっている。初めはこわごわ手を入れて触ってみる位だったが終りにはつかみ出し、たらいの中だけでは飽き足りず積み木で家の様な廊を作りその中へ入れたり机の上を這わせたり、坂道を作って歩かせたり毛虫のときと同じようにして一匹ずつ持って遊んだ。皆水から上げてしまっている。水に入れて見ているだけでは満足しないらしい。また両手に一匹づつ持って喧嘩させてみたり、ひげとハサミでひっかけたりもした、かえるもバケツから出してきて部屋中飛ばせて見たり、坂の上で飛ばせたりして自分の思うまま動かして遊んでいた。あまり沢山無いし又小さいえびかにばかりだが、こんなにも遊べるものかと思った。一方女児の一部では机を並べてトンネルの様にし、えびかにのお家にして飛んだり這ったり、後飛びしたり途中から抜け出して来たりして遊んだ。いつまでも片付けるのが惜しい位だった。自由遊びが急に活気付いてきてほんとに良かったと思った。

※下線部分は判読不明。○は園児のプライバシー保護のために氏名に付した。

表7　1961年度単元と主題

月・週	単元	主　題
4月第1週	春	入園式
2	〃	楽しい幼稚園
3	〃	花と蝶
4	〃	〃，毛虫
5月第1週	(無記入)	鯉のぼり，毛虫
2	〃	〃　〃
3	〃	毛虫，住吉神社
4	〃	ぶんぶん蜂がとぶ
5	〃	蜂と蝶，えびかにとり
6月第1週	〃	蛙とえびかに
2	〃	つばめ
3	〃	つばめ
4	〃	つばめ
7月第1週	〃	七夕まつり
2	〃	あさがおのたねぼう
3	〃	あり
4	〃	あり，マット平均台遊び
9月第1週	秋	こりすとボール
2	(無記入)	〃
3	秋が来た	虫のまち
4	〃	虫とり
5	秋，運動会	虫のまち
10月第1週	秋	虫のまち
2	〃	運動会
3	〃	〃
4	秋の山	お山のりす
11月第1週	美しい秋	こりすといがぐり
2	〃	〃　奈良遠足
3	〃	奈良
4	〃	〃
5	〃	〃
12月第1週	(無記入)	冬ごもり
2	冬	小虫の冬ごもり
3	〃	クリスマス・終業式
1月第1週	〃	ペンギンごっこ
2	(無記入)	〃
3	〃	皇帝ペンギンごっこ，霜の兵隊
4	〃	霜の兵隊さん；みのむしのゆめ
2月第2週	〃	みのむしのゆめ
3	〃	(無記入)
(記録なし)		

(大阪市立S幼稚園)

表8　S幼稚園の一週間の保育（例）

4月17日（月）	18日（火）	19日（水）	20日（木）	21日（金）	22日（土）
幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動	幼児の活動
自由遊び 汽車ごっこ お家ごっこ ままごと かたづけ 歌　朝の歌 動き スキップ 前後，まわる 止まる 話し合い “日曜日に遊んだこと” お話 きーちゃん，しーちゃん 表現 蝶，お花，お日様 歌「お友達」 自由遊び お花をみる 蝶をみる お山で遊ぶ 11時　降園	自由遊び ままごと 蜂，蝶，お花ごっこ かたづけ 歌「朝のうた」 動き 両足とび，開閉とび けんけん，2人とび なべなべ，今日から友達のダンス お話の反復 きーちゃん，しーちゃん 表現 きーちゃん，しーちゃんとお花 お日様，雨 蝶の表現（個々に） 歌「幼稚園」	製作 お花のいろいろ（色紙と画用紙とで作る） 自由遊び ままごと 舟ごっこ おいかけごっこ かたづけ 歌「朝の歌」 動き スキップ 一人ずつスキップする（前後，まわる，止まる，高くとぶ，しゃがんで） 表現 きーちゃん，しーちゃん 蝶の表現 歌「幼稚園」	自由遊び 蜂と蝶ごっこ ままごと 本をみる 製作 お花 庭に出て遊ぶ（お花をみる） かたづけ 歌「朝の歌」 話し合いと表現 蝶のいろいろ お花にとまる 高く空までとぶ みつを吸う お花の表現 動き スキップ 足を高くあげて後に強くけって前進，後退，まわる 止まる	製作 お花と蝶 自由遊び かけっこ 鉄棒，ジャングルで遊ぶ かたづけ 眼科検査 歌「朝の歌」 動き　両足とび 開閉とび ケンケン ランニング お話 お花がさくまで 表現 お花が土の中でねむる。 雨とお日様が来て対話 ダンス“今日から皆お友達” 歌「チューリップ」 「幼稚園」	自由遊び 蜂と蝶ごっこ ままごと お家つくり 製作 お花と蝶 かたづけ 歌「雨」 動き スキップ 高く，低く，大きく，小さく 話し合いと表現 雨について お花がさくまで 雨，お日様，お花になって対話 お花と蝶 （下線：引用者）

大阪市立S幼稚園1961年度「保育の記録」より（大阪千代田短期大学蔵）